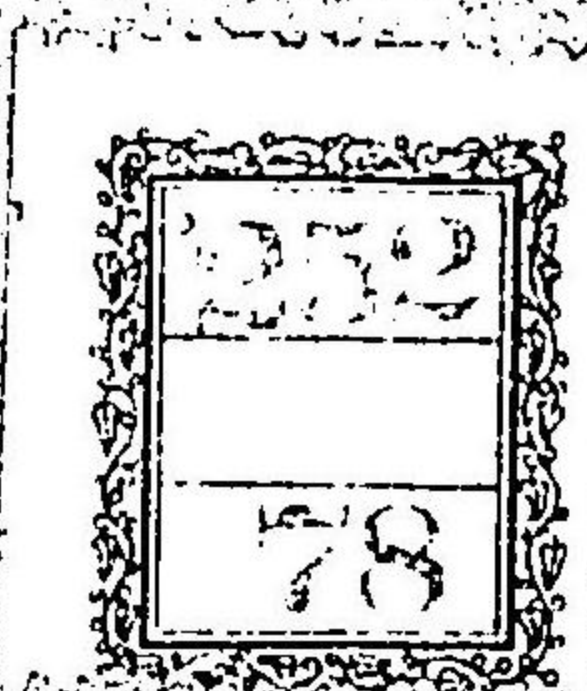


地理學研究會編纂

戰後
最新
日本地理

全

大阪 井上一書堂發兌



特20
446

地理學研究會編纂



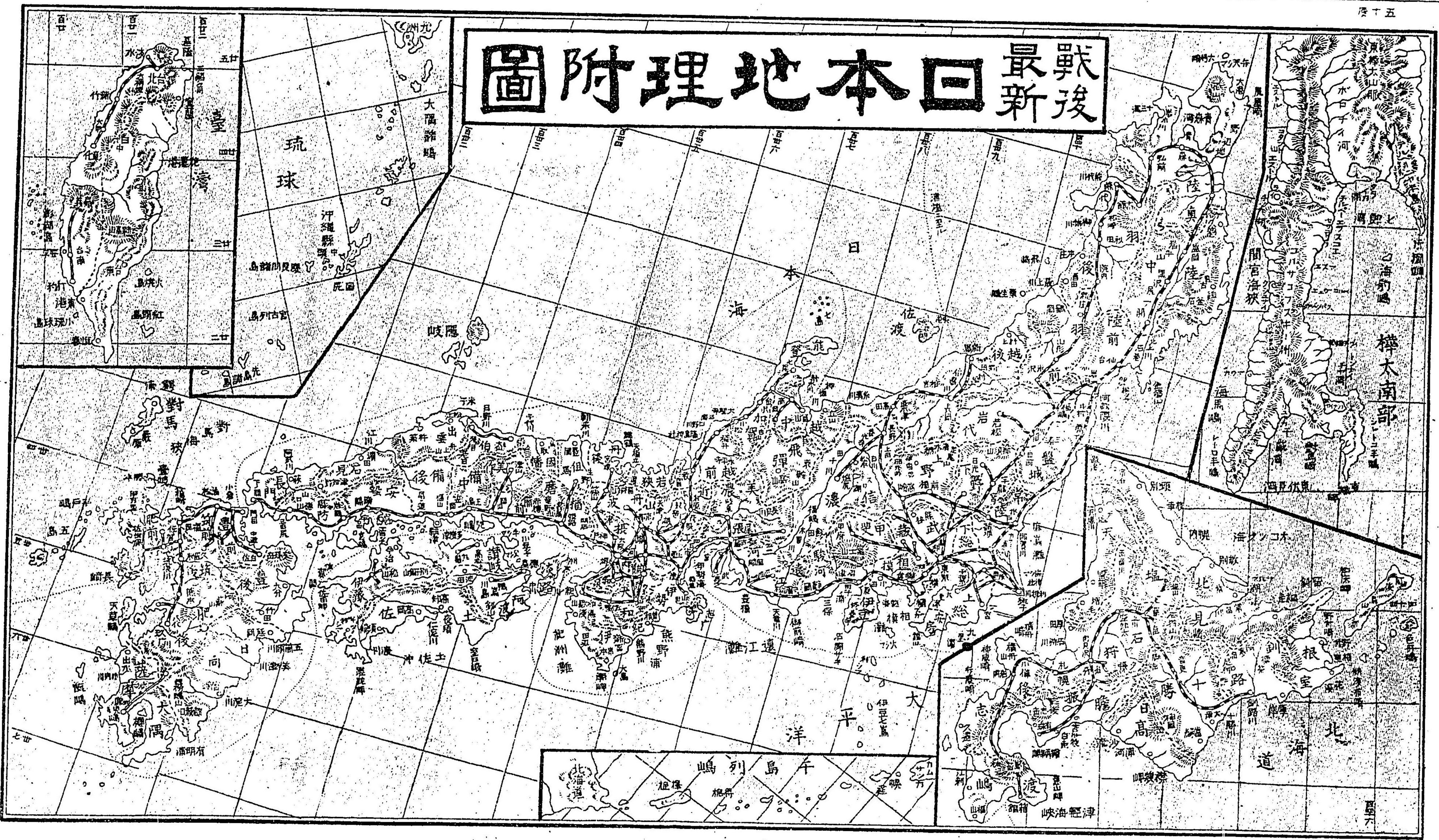
本地理

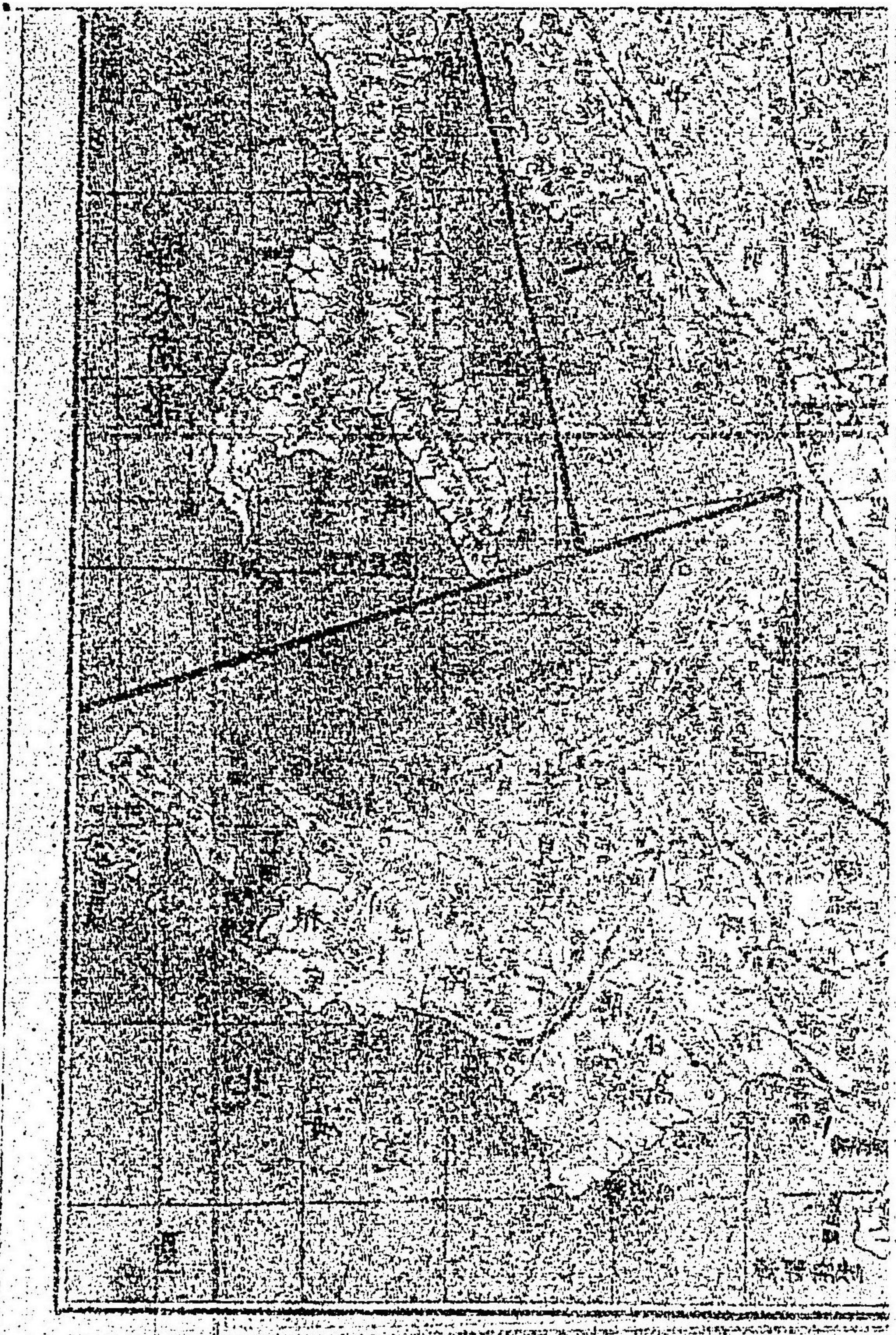
全

明治
38 11 8
丙交

大阪
井上一書堂發兌

戰後最新日本地理附圖





戰後最新日本地理目次

第一編 地理總論

- 地球の表面……………一
- 大洋及び海……………一
- 大陸及び嶋嶼……………三
- 陸地表面の形状……………五
- 緯度及び經度……………六
- 地圖の描き方……………七
- 附練習問題……………八

第二編 日本地理總論

- 第一章 位置……………一〇
- 我國の緯度及び經度……………一一

○目次

- 我國の境域……………一二

- 我國の成立……………一三

- 我國の面積……………一七

- 附練習問題……………一九

- 海洋と海岸線……………二〇

- 附練習問題……………二一

- 第二章 我國の地勢……………二二

- 地形……………二二

- 山岳……………二四

- 我國の山脈……………二八

- 支那山系又崑崙山系……………二九

一

- 本洲島の山脈及び此に属する山岳……二九
- 四國島の山脈及び此に属する山岳……三二
- 九州島の山脈及び此に属する山岳……三二
- 北海道本島の山脈及び此に属する山岳……三三
- 臺灣島の山脈及び此に属する山岳……三四
- 火山岳……三六
- 本洲島の部……三六
- 九州島の部……三八
- 北海道本島の部……三九
- 臺灣島の部……三九
- 本洲島の火山脈及び此に属する火山……四〇
- 九州島の火山脈及び此に属する火山……四一
- 四國島の火山脈及び此に属する火山……四一

- 北海道の火山脈及び此に属する火山……四一
- 臺灣島の火山脈及び此に属する山岳……四三
- 温泉……四七
- 河流……四九
- 本洲島の水系及び著名なる河流……五一
- 四國島の水系及び著名なる河流……五三
- 九州島の水系及び著名なる河流……五三
- 北海道本島の水系及び著名なる河流……五四
- 臺灣島の水系及び著名なる河流……五五
- 湖沼……五七

- 附練習問題……五九
- 海流……六〇
- 潮汐……六三
- 附練習問題……六四
- 海岸……六五
- 本洲東部大平洋に面する海岸の状態……六七
- 本洲島の南部大平洋に面する海岸の状態……六八
- 本洲島西部瀬戸海に面する海岸の状態……七一
- 本洲島の北部日本海に面する海岸の状態……七二
- 附練習問題……七五
- 四國島海岸の状態……七六
- 附練習問題……七八
- 九州島海岸の状態……七九

- 附練習問題……八一
- 北海道島海岸の状態……八一
- 附練習問題……八四
- 臺灣島海岸の状態……八四
- 附練習問題……八五
- 海峽……八六
- 第三章 氣候……八七
- 温度……八九
- 風……九三
- 雨……九八
- 附練習問題……一〇一
- 第三編 日本地方地理
- 第一章 畿内……一〇四

- 畿内の位置……………一〇四
- 畿内の地勢……………一〇四
- 畿内の氣候……………一〇五
- 京都府……………一〇五
- 大阪府……………一一〇
- 奈良縣……………一一六
- 兵庫縣……………一一九
- 附練習問題……………一二五
- 第二章 東海道……………一二八
- 東海道の位置……………一二八
- 東海道の地勢……………一二八
- 東海道の氣候……………一二九
- 附練習問題……………一三〇

- 東京府 附練習問題……………一三二
- 神奈川縣 全上……………一三六
- 靜岡縣 全上……………一四〇
- 愛知縣 全上……………一四五
- 三重縣 全上……………一四九
- 千葉縣 全上……………一五二
- 茨城縣 全上……………一五五
- 埼玉縣 全上……………一五七
- 山梨縣 全上……………一五九
- 第三章 東山道……………一六二
- 位置及び區劃……………一六二
- 地勢及び氣候……………一六三
- 滋賀縣 附練習問題……………一六五

- 岐阜縣 附練習問題……………一六八
- 長野縣 全上……………一七〇
- 群馬縣 全上……………一七三
- 栃木縣 全上……………一七六
- 福嶋縣 全上……………一七八
- 宮城縣 全上……………一八〇
- 巖手縣 全上……………一八二
- 青森縣 全上……………一八四
- 秋田縣 全上……………一八六
- 山形縣 全上……………一八八
- 第四章 北陸道……………一九〇
- 北陸道の位置及び分劃……………一九〇
- 北陸道の海岸……………一九一

- 北陸道の地勢……………一九一
- 北陸道の氣候……………一九一
- 福井縣 附練習問題……………一九二
- 石川縣 全上……………一九四
- 富山縣 全上……………一九七
- 新潟縣 全上……………一九九
- 第五章 山陰道……………二〇二
- 位置及び區劃……………二〇二
- 地勢……………二〇二
- 氣候……………二〇三
- 鳥取縣 全上……………二〇四
- 嶋根縣 全上……………二〇六
- 第六章 山陽道……………二一〇

○位置及び區劃	二二〇
○地勢及び氣候	二二〇
○岡山縣 附練習問題	二二一
○廣島縣 全上	二二四
○山口縣 全上	二二七
第七章 南海道	二二九
○位置及び區劃	二二九
○地勢及び氣候	二三〇
○和歌山縣 附練習問題	二三一
○徳嶋縣 全上	二三四
○香川縣 全上	二三六
○愛媛縣 全上	二二九
○高知縣 全上	二三二

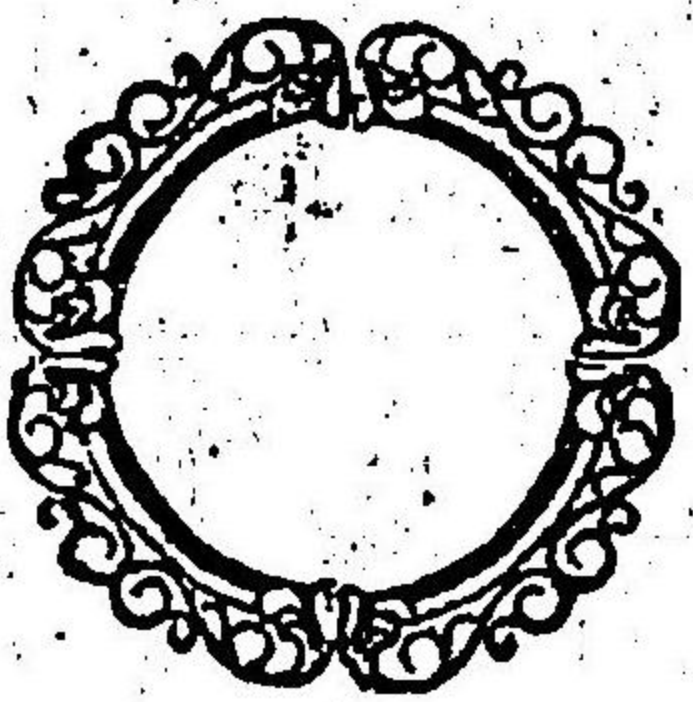
第八章 西海道	二三四
○位置及び區劃	二三四
○地勢氣候及び生産物	二三四
○福岡縣 附練習問題	二三六
○大分縣 全上	二三九
○佐賀縣 全上	二四二
○長崎縣 全上	二四四
○熊本縣 全上	二四七
○宮崎縣 全上	二五〇
○鹿児島縣 全上	二五二
○沖繩縣 全上	二五六
第九章 北海道	二五八
○位置區劃地勢及び氣候	二五八

第十章

○臺灣嶋：附練習問題	二六七
第十一章 樺太島	二七三
○位置	二七三
○地勢	二七四
○面積及び區畫	二七四
○人種と人口	二七五
○山脉	二七六
○河流	二七七
○湖沼	二七八
○港灣	二七九
○島嶼	二八一
○都邑	二八二

目次 終

○氣候	二八六
○物産	二八七
○森林 獸類 魚族	二八九
附録	
○樺太西對岸沿海州の良港灣	二九一



戦後 最新 日本地理

地理學研究會編纂

第一編 地理總論

◎地球の表面

地球ノ表面ノ陸地ノ面積ハ凡ソ九百萬方里ニシテ、水ノ面積ハ二千七百萬方里ナリ、故ニ地球全面積ノ四分ノ一ハ陸地ニシテ、其四分ノ三ハ水ナリトス。

◎大洋及ビ海

日本附近ノ海洋ハ凡ソ最深モ其ノ最モ

地球表面の水を稱して大洋と海との二とす、大洋とは其水の最も大なる部分を云ひ、海とは大洋の水が陸地の間に入りたる部分を云ふ。

深キ處ハ
北東南ナ
ルノトス
カローラ
附近ノ海
ニテ實ニ
三萬尺以
上ノ深サ
アリ
日本海ノ
均一ナル
深サハ平
均一ナル
百尋内外
ナリ
日本海中
ノ最深
キ處ハ亞
細亞大陸
ニ邊シテ
ル方ナリ

海の水が深く陸地に入りたる部分を灣と云ふ、灣の水の又た特に陸地へ入り込
みて船舶の碇泊する所を港と稱す、又た海水と海水とを連ぬるか、或は海水と
大洋とを連ねたる狭き海水を稱して海峽と云ふ。
大洋と云ひ海と云ひ灣と云ひ、其名稱こそ異なるれ、地球表面の水は相互ひに
連絡して絶ゆることなし。

大洋は別つて五とす、即ち

大平洋、大西洋、印度洋、北氷洋、南氷洋是なり、而して此五大洋は大陸と大
陸の間に在りて、兩大陸間の交通を便利にするものなり。

大平洋は五大洋中の最大なるものにて、其面積殆んど地球全面積の三分の一あ
り、大平洋の東岸は南北アメリカにして、西岸は亞細亞大陸及びオースタリヤ
大陸なり、而して我が大日本帝國は、實に大平洋の西北岸に、長く横たはる島
嶼國なり。

大西洋の東岸はヨーロッパ及びアフリカの二大陸にして、西岸は南北アメリカ

出曲トハ
出タリ入
ルコトナ
ルコトナ

の大陸なり、其東岸ヨーロッパとアフリカの間に入り込みたる大なる海を、地
中海と稱す、大西洋の東西兩岸は、土地の彎曲極めて多く、大灣、小灣、相連
りて其中に良港亦た數多あり、即ちニューヨーク。マルセイユ。ボムベール等の
如し、故に五大洋中に於ける船舶の交通、最も盛なるは此大西洋なりとす。

印度洋ニ
變流ノ生
ズルハ熱
帯ナルヲ
以テナリ

印度洋は大平洋と大西洋の中間にして熱帯中に在り、東はオースタリヤ大陸に
して、西はアフリカ大陸、北は亞細亞大陸なり、而して南は南氷洋に通ず、故に印
度洋は三面大陸にて圍まる、彼の赤道洋流と稱する暖流の生ずるは印度洋なり、
南北氷洋は兩極の周圍に在る大洋にして、其水北氷洋より南氷洋のもの寒し。

◎大陸及び島嶼

散在トハ
ニ成ツテ
在ルコト
ノ四方ハ
ノコトナ

地球表面の陸地を大陸と島嶼の二とす、大陸とは陸地の最も長く廣きものを云
ひ、嶋嶼とは陸地の狭く小さきものを云ふ、而して嶋嶼は大陸の附近に散在す。
大陸と云ひ島嶼と云ひ、其名稱に於てこそ異なるれ、其の周圍は大洋或は海にて

四
圍れたるものなり。

地球表面の大陸を分つて二と、即ち東大陸西大陸なり、東大陸の在る部分を、更に東半球と稱し、西大陸の在る部分を更に西半球と稱す。

東半球の陸地即ち東大陸を更に大別して。

アジャ。アフリカ。ヨーロッパ。フースタリーの四大陸とし、西半球の陸地、即ち西大陸を南北アメリカの二大陸に區別す。

故に地球表面の大陸を六大陸と云ふ、此六大陸中の最も大なるものは、アジアにして、次はアフリカ、次は北アメリカ、次は南アメリカとす、而して此に次ぐものは即ちヨーロッパにて、其最も小なるものはオースタリーなり。離嶼を分つて二とす、一を陸島と云ひ一を洋嶋と云ふ。

陸嶋とは大陸の附近に在る大なる嶋嶼のことにて、元は大陸の一部分を爲せしものが、或は時代に於て大陸より別れたるかの如き觀あるものを云ふ、即ち我日本帝國の如き陸島に屬す。

オースタ
の近傍ニ
在ルセル
ベスシヤ
ニタスコ
ニタスコ
諸嶋ヲ合
シテオセ
ト稱ス
ア
ト稱ス

六大洲
ト稱ス

孤立下
一本立
コトナ
ナナル

尖端ハ出
ハズレ
井ミ

地球上一番
キナノハ
南亞細ヤ
山ノ頂上
トス其高
サノ九
千尺及
アノ富士
山ノ高サ
ノ二倍ナ

洋島とは海洋中に陸地の頂を現せるものにて、海洋中に孤立せるものを云ふ、即ち小笠原嶋の如き是なり。

大小嶋嶼の數多集りたるものを群嶋と云ふ。

大陸及び嶋嶼には、半嶋、岬及び地峽等の稱あり、其は形狀に依りて名附たるものなり。

半嶋とは三面水に圍まれて、唯其一方面のみ陸地と接続せるものを云ふ。

岬とは陸地の海中に半嶋の如き形狀にて、細く長く突き出でたる其突端を云ふ。

地峽とは左右の陸地を連ねたる其間に在る、狭き陸地のことを云ふ、猶海に於ける海峡のごとし。

◎陸地表面の形状

陸地の表面は決して一樣なるものにあらず、必ず高低凹凸のあるものなり、故に陸地の表面を大別して、山岳、高地、及び低地の三つとす。

地球上一番低
キ處ハニ
ルサレム
ル死海ノ
水面ニテ
其低サテ
三以下千
百尺ナキ

位置トハ
其ノ在ル
場所ノコ
トナリ

地球ノ
中心ニ
ハ輪ニ
シキ線
コトナリ

赤道トハ

山岳とは陸地の最も高き處を云ふ、山岳にも高低大小あり、其低くして小なるものを丘陵きやうりやうと云ひ、山岳の連り且つ重なるものを山脈と云ふ。山脈の相集まれるものを山嶽さんたうと稱し、山脈の中に在る細き低き土地を峠とうと云ふ、即ち山脈中の交通路かうつうろなり、谷とは山岳と山岳の間の細き低地を云ふなり。

◎緯度及び經度

地球表面に在る大陸及び各嶋嶼の位置を、十分に解し易く定めむ爲めに、地理學者が地球の表面へ假に、數多くの縦線と横線とを引き描きたり、其の横に引きたる線を緯度線と稱し、縦に引きたる線を經度線と稱す。

緯度線は赤道を起點として、其れより南北へ赤道に並行して引きたる圓線なり。而して赤道より南へも九十線、北へも九十線を劃せり、其一線と一線の間を一度と云ふ。

緯度の起點は赤道なるを以て、赤道を零度とし、赤道より南へ一度、北へ一度

地球表面
ノ南北
當分點
沿フテ
地球ヲ
一周ス
ルニメ
テ線ヲ
引ク

と數へて、各九十度に至つて止む、故に北緯五十度と云へば、赤道より北へ五十度の所を云ひ、南緯二十度と云へば赤道より南へ二十度の所を云ふ。

又更に一度を六十分に分てり、因て北緯五十一度三十分と云へば、赤道より北五十一度半の所なり。

經度線は緯度線と十文字に成るべく爲めに、縦に引きたる線にて、又た子午線しごと云ふ、英吉利イギリスのグリニツチ大學の天文台を零度とし、即ち基點として、其より東方に引かれたるものを東經とし、西方に引かれたるものを西經とす、而して經度は其數を残らずで、三百六十に分ち、一つを一度として三百六十度を算す、此の三百六十度を二分して百八十度とし、東西に分つ、故に東經も百八十度あれば、西經も百八十度あるなり。

經度も亦た緯度の如く、一度を更に六十分に分たる。

◎地圖の描き方

○

○

境界線ト
ハ國ト國
トノ境ノ
線等ヲ云
フ

海岸線ト
ハ水ト海
トノ境ノ
線ヲ云
フ

地圖を描かんとするには、上を北と定め、下を南とし、右を東に、左を西と定めて、其より描かんとする地圖の緯度及び經度を引くべし、尙ほ委しくは緯度及び經度の間を更に六等分して、其一を十分と定め置き、而して後に描かんとする地圖の海岸線及び境界線を寫すべし。
海岸線及び境界線を寫し終らば、其れより山岳山脈河流都市名邑も順序に寫しゆくべし。

◎練習問題

- 地球の面積を問ふ
- 陸地と海洋の各全面積を問ふ
- 大洋と海の區別并に五大洋の名稱及び位置を記せ
- 灣港及び海峽の區別を問ふ
- 大陸と島嶼の區別を問ふ

- 六大陸の名稱を問ふ
- 島嶼の區別を問ふ
- 陸島とは如何なるものを云ふか
- 洋島とは如何なるものを云ふか
- 群島とは如何なる島なるか其一例を示せ
- 半島とは如何
- 岬及び地峽の形狀を問ふ
- 陸地表面の形狀を問ふ
- 山岳及び山脈とは如何
- 峠及び谷とは如何
- 緯經度とは如何なることを云ふか
- 緯度を説明せよ
- 經度を説明せよ

- 地球表面は何に依て成立つてゐるか
- 五大洋中の一番大なるものは何洋なるか
- 六大洲中の最大なるは何洲にして其最小なるものは何洲なるか

第二編 日本地理總論

第一章 位置

吾人の生息する我大日本帝國は、地球上東半球に屬して、亞細亞大陸の東部に位し、太平洋の西北端に在つて、東北より斜めに細く長く延びたる一連の嶋嶼國なり。

其東北端より西南端に延長せる其長は、實に二千二百五十餘里を算す。

極南は臺灣嶋の最南端なる南岬に起りて、極北は即ち千嶋列嶋の北端に在る「アライト」嶋なり。

歐人我國を呼びて、かさいりつとま花彩列嶋と稱す、蓋し我國の形狀麗はしき花彩の其に似た

一連の嶋
ツニ成ハ
ア連ナツ
ア井ルコ
ト

生息する
我々の住
コト

歐人トハ
西洋人ノ
フコトヲ
云

るを以てなり。

花彩とは歐州諸國に於て、慶事の際に種々の美麗なる花瓣を集め、其れにて室内の裝飾をなす、其裝飾を爲したる花瓣の形狀を、花彩と云ふと聞きぬ。

◎我國の緯度及び經度

我國の極南は北緯二十一度五十三分に起り、極北は北緯五十一度四十五分に終る。

極西は東經百十九度二十分にして、即ち澎湖嶋の西端に起り、極東は東經百五十六度三十二分にして、千嶋列嶋の占守嶋しゆせつに終る。

左れば極南は既に熱帯に入ると雖も、極北は未だ寒帯に入らず、其の寒帯に入らむには尙ほ十五度以上を算すと云ふ、故に我國は寒暑の差甚しからず、即ち氣候温和にして、人類の生活及び動植物の繁殖に最も適する最好位置の海國なりとす。

西洋アハ
喜ビ事ノ
アハ必ズ
ヤハ美色
ナハ花麗
集メテ室
内ヲ飾リ
カニナシ
ノツケル
コ

熱帯トハ
赤道ノ南
北二十度
中ノ處ヲ
限リトス

◎我國ノ境域

境域トハ
サカヒノ
コトナリ

我國の境域は南は。ベーシー海峡を隔て、米領ヒリッピン群島と相對し、北は宗谷海峡に依りて、樺太島に連り、又たカムチャツカ半島とは僅かに久留里海峡を隔つるのみ。

海峽トハ
ロムト
シタルコ

西は日本海及び支那海を隔て、朝鮮支那及び露西亞のサイベリヤ州に接す、而して東は彼の一望千里渺たる太平洋を隔て、遙かに亞米利加洲を望む。

◎我國ノ成立

成立トハ
出来アガ
ツアル有
様ナニフ

我國は五個の大島と千余の小島が五個の大島に附屬して成立するものなり、此の五大島の中の最も大なるものを本州と云ふて、我國の中央に在り、本州の北にある大嶋を蝦夷嶋と稱して、即ち北海道本島なり、本州の西南に隣れる大島を九州島と呼び、而して其の南方遙かの彼方に在る大島を台灣と稱す、四國嶋

は本州と九州島の間にして、本州の南方に隣れる大島を云ふなり。

而して此の五大島に附屬せる、四千余の小嶋中の重なるものは、北海道本蝦夷島の東北に千島群島あり、九州島の南方に琉球諸島あり、佐渡隱岐等は日本海に在りて本州に屬し、對馬壹岐等は九州島に屬し、淡路は四國島に屬す、其他小笠原嶋、伊豆七島等は共に太平洋中に在りて本洲に附屬す、澎湖列嶋は台灣島に屬す、

區劃トハ
アカチカ
メナチカ

今五大島に於ける新舊の區劃を列擧すれば左の如し。

新區劃は行政上の便宜に依りて、三府四十三縣と、一道廳及び一總督府を置く三府とは東京、京都、大阪にして、一道廳とは北海道廳、一總督府とは即ち台灣總督府なり。

本洲島に屬する府縣

- 東京府。神奈川縣。千葉縣。茨木縣。埼玉縣。靜岡縣。山梨縣。愛知縣。
- 三重縣。京都府。奈良縣。大阪府。兵庫縣。和歌山縣。滋賀縣。岐阜縣。

○位 置

長野縣。栃木縣。群馬縣。福島縣。宮城縣。巖手縣。青森縣。山形縣。秋田縣。福井縣。石川縣。富山縣。岡山縣。廣島縣。山口縣。島根縣。島根縣。

四國島に屬する縣

德島縣。香川縣。愛媛縣。高知縣。

九州島に屬する縣

福岡縣。大分縣。佐賀縣。熊本縣。宮崎縣。鹿兒島縣。沖繩縣。

北海道島は 北海道廳之を管轄し

台灣島は 台灣總督府之を管轄す

舊區劃は畿内八道八十五ヶ國に大別せり

本洲島に屬するもの

本洲島を畿内、東海、東山、北陸、山陽、山陰の六道五十六ヶ國に區劃せり

畿内 五ヶ國

山城 大和 河内 和泉 攝津

東海道 十五ヶ國

伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏

安房 上總 下總 常陸 (小笠原島は武藏に屬す)

東山道 十三ヶ國

近江 美濃 飛彈 信濃 上野 下野 磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥

羽前 羽後

北陸道 七ヶ國

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡

山陰道 八ヶ國

丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐

山陽道 八ヶ國

播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門

〇位 區

四國島に屬するもの

南海道 六ヶ國

紀伊 淡路 阿波 讃岐 伊豫 土佐

九州嶋に屬するもの

西海道十一ヶ國

筑前 筑後 豊前 豊後 肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球

北海道島に屬するもの

北海道 十一ヶ國

渡嶋 後志 石狩 天塩 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千島

以上が舊區劃の國別なり。新區劃に依れば府縣を更に市及び郡に分ち郡を更に町村に分たる。

一縣にて二國乃至三國を管轄するもあれば、又九單に一國を管轄するもあり。

市ニハ府
又ハ縣
ヲ區カ
ル
管轄トハ
行政事務
ヲ取リ扱
フコト
ト行フコト

或は一國を割きて其一部は甲の縣に於て管轄し、他の一部を乙の縣にて管轄するもあり。其詳しきは各論地方地理の部に於て説かむ。

◎我國の面積

我國の五大島を合したる全面積は、二万七千〇六十二方里あり、而して五大島中の最も大なるものは、本洲島にして其面積一万四千五百七十一方里を算す、故に殆んど全面積の半あり、此に次ぐものは北海道本嶋にして、本洲島の三分一を有し、次は九州嶋にして臺灣島之れに準じ其最小なるものを四國島と爲す。今最近の調査測定にかゝる我國五大島の各面積及び琉球、澎湖島等の此に附屬せる重なる小嶋の面積を示せば左の如し。

本洲島の面積

一万四千五百七十一方里余

北海道本島の面積

五千〇六十一方里余

○位 置

十七

調査測定
ニ於テ其筋
トハ其筋
シテ取リ
クベテ測
ラレタリ

九州島の面積	二千六百十七方里余
臺灣島の面積	二千二百五十九方里余
四國島の面積	一千百八十方里余
佐渡ヶ島の面積	五十六方里余
對馬島の面積	四十四方里余
淡路島の面積	三十六方里余
隱岐島の面積	二十一方里余
壹岐島の面積	八方里余
千島の面積	一千〇三十三方里余
琉球嶋の面積	百五十六方里余
小笠原嶋の面積	四方里余
澎湖嶋 <small>マカオ</small> の面積	八方里余

以上の如くなるを以て、五大嶋中の最大なるものは、即ち本州嶋にして、其最

小なるものは四國島なりとす。

又附屬小島の中に於て、其最大なるものは千島群島にして、其最小なるものは即ち小笠原島なり。

◎ 練習問題

- 我國の位置を記せ
- 我國の緯度及び經度を問ふ
- 我國の境域を問ふ
- 我國の成立の狀を問ふ
- 佐渡隱岐は何の海中に在るや
- 小笠原島伊豆七島は何の海中に在るや
- 我國の新區劃と舊區劃とを詳記せよ
- 我國の全面積は幾許ありや

- 五大島中の最大なる島は何島なるや并に其面積幾許ぞ
- 附屬群嶋中の最大なるものと最小なるものを問ふ
- 我國の東部は何洋を隔て、何國と相對するや
- 我國は人類の生活動植物の繁殖に適すと云ふ其理由を説明せよ

◎海洋と海岸線

我國は四方海もて圍まれたる海國なれば、海洋東西南北に在り、南東部一帯の海洋は太平洋にして、西部一帯の海洋は支那東海なり。
 又た北東部一帯の海洋は日本海にして、北部の海洋は北海即ちオエック海なり。
 此の周圍の海洋と陸地との境界線を、地理學上の言葉にて海岸線と云ふ、海岸には必ず陸地の高處より流れ来る河流の海に注ぐ口あり。
 又た海洋には必ず風波等の起こるものなり、因て此の風波或は河流の河口に働ける自然の作用に依て、海岸を長き年月の中には洗ひ去られることもあり、又

支那東海ニ依テ南海支那方面ノ境界線ト云フ
 其位置ニ依テ南海支那方面ノ境界線ト云フ
 其位置ニ依テ南海支那方面ノ境界線ト云フ
 其位置ニ依テ南海支那方面ノ境界線ト云フ

た河流の上流より土砂等を流し、其れが長き年月の中に、次第に河口に堆積して新地を造ることあり。
 故に海岸線は終始一定不變のものにあらず、河流の風波等の作用に依りて、長き年月の中には、必ず多少の變動を生ずるは知れ渡りたることなり。
 我國は其面積に比して、海岸線の最も長き國なり、海岸線長ければ、其線内に港灣の多きや必せり、港灣多ければ海陸運輸の便多きや言を俟ずして明かなり。
 因て長き海岸線を有する國は、進歩發達の程度必ず速かなりと云ふ、是れ地理學上の原則なり。

我國の海岸線長き理由及び海岸線長ければ、其國の進歩發達の程度速かなりと云ふ其理由は、次章我國の地勢の下に於て詳記せむ。

◎練習問題

○我國周圍の海洋の名稱を問ふ

○位 置

ナカハシクニテ土砂ヲ堆積スルモノトモノトモス
 土砂ノ堆積ニ依リテ河口ノ位置ニ變動ヲ生ズルモノトモノトモス
 土砂ノ堆積ニ依リテ河口ノ位置ニ變動ヲ生ズルモノトモノトモス

原則トシテハ進歩發達ノ程度ニ速カニシテ其理由ヲ明カニシテ記述スルモノトモノトモス
 海岸線長キ國ニテハ其理由ヲ明カニシテ記述スルモノトモノトモス
 海岸線長キ國ニテハ其理由ヲ明カニシテ記述スルモノトモノトモス

○海岸線とは如何なることを云ふや

○海岸線は一定不變のものにあらずと云ふ理由如何

○我國の面積に比して海岸線長き理由如何

第二章 我國の地勢

我國の地勢は我國を構成せる、二個の大山脈系統が、其の連續せる方向に依て、斜めに四大嶋（北海道本島本洲島四國嶋九州島）を貫通す、因て其中央部に於ては、最も高く兩端に赴くに從ふて次第に低し、故に其形狀即ち我國の地勢は恰も弓状を爲す。

此の二大山脈系統の一は西南より起つて、斜めに東北に蜿蜒連續し、一つは北より西南に向つて、宛然龍の躍るが如くに相連れり。

◎地形

系統トハ
其ノ基礎
ノ山脈
ト連キ來
ルコトナ
リナリ

宛然龍の躍るが如くに相連れり
巨トハ出
込リ引キ
込リ引キ
コトナリ

状態トハ
其ノあり
さまノコ
トナリ

我國ノ五
大島トモ
山脈ガ貫
通シテ其
テ中央部
ハ必ズ高
シ

集合トハ
縦横ヨリ
來ル山脈
ガ互ヒニ
相集ルチ
以テ其處
ハ必ズ高
キナリ

海面以下
トハ平地
ナリ低キ
處ノコト
ナリ

地形とは陸上に於ける土地の状態を云ふ、我國の状態は土地の高低殊に著しく、東北より西南に細く長く延びて、宛然大小の弓を、五個並べたるが如し、其中央に在る最も大なる弓は、本洲嶋にして、其南に在る小さき弓は四國嶋なり、本洲嶋の東北に在る大なる弓を、北海道本嶋とし、其北に在る小さき弓を千嶋列嶋とす。

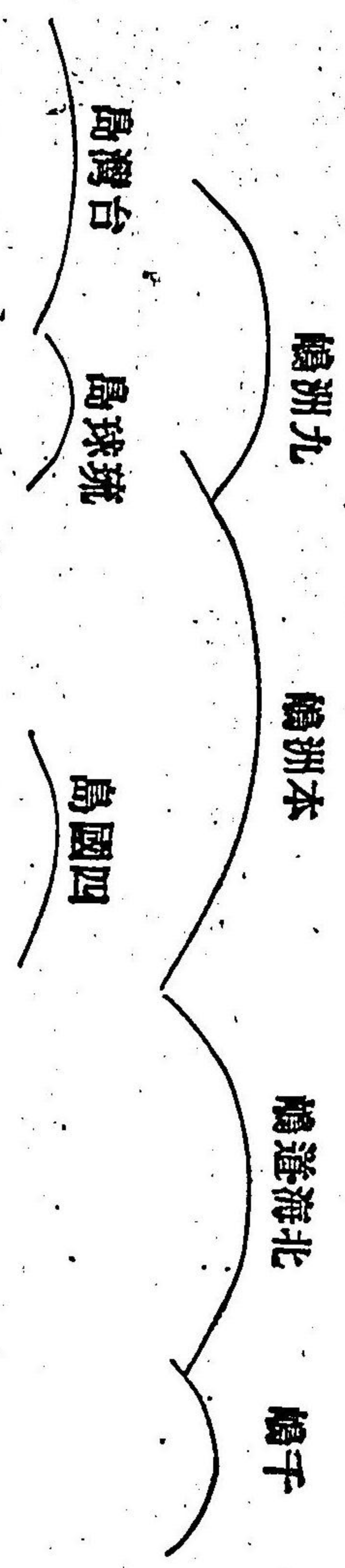
本洲嶋の西南に在る大なる弓を、九州嶋とし其南に在る弓を台灣嶋とす。何故に斯の如く弓状を爲すかと云ふに、是れ大山脈が各嶋を通じて互ひに相連なれるを以てなり。

因て各嶋の中央部は、山脈の互ひに集合する處なるを以て、土地極めて高く、即ち弓の中心と見て可なり。

而して我が國にて土地の最も高さ處は、大山脈の最も多く集合せる處にして、即ち本洲嶋の中央なりとす、而して山脈と山脈の間は、一般に土地低くして平かなり。

地ヨリ低
キ處ニハ
必ズ水來

我國に於て土地非常に低く、海面以下に達する部は、即ち本洲島の西部中國山脈と、四國山脈の間にして、所謂瀬戸内海なりとす。今我國の地形を、想像的に圖にて示せば左の如し。



故に我國は全國到る處、大山脈の互ひに相連り相重らざるはなし、因て我國の地形を構成する其地路なるものは山脈なりとす。

◎山 岳

山は地球自身の變化に因りて、其表面に現はれたる土地の狀態なり、元來地球は太陽と同じく、一つの火塊なりしも、次第々々に冷へ渡りて、終に其表面に

地球ハ極
メテ古キ
時代ニ於
テ太陽ト
同シク盛
ンニ燃テ
后ニタモ
ニテ火

カタマリ
ノ塊テア
ツタノテ
アル

地殼トハ
地ノカラ
ト云フコ
トテ土ノ
カラ云フ
井テハナ
ク地球ノ
殼ト云フ
井ナリ

連絡トハ
甲ノ山ヨ
ヘリノ山
ヘ五ノ山
連ナツテ
ルコトナ

燃渣を生じ、其燃渣が同じく次第々々に冷されて、然して現今の有様なる陸地となり、其の陸地より低き處は海洋と成りしなり、此の燃渣の狀態となりし其れを稱して、地殼と云ふ、此の地殼が又次第に冷ゆるに従ふて、處々に皺を生ず、是れ物理學の原則に因て、冷ゆれば物は縮る、其の縮る狀態に依りては必ず皺を生ぜざるべからず、其は其の冷し方が一様ならずして、或は早く冷ゆる處もあれば、又た遅く冷へし處あるを以てなり。物に皺を生ずれば其面の均しからざるや必せり、故に其の皺の高りたる處は、即ち我々の稱する山にして、其皺と皺の間は即ち平地と成り、或は海洋とは成りしなり。又た物に皺を生ずるや、其皺必ず一つならずして、大小數多のものが互ひに相連り、故に山も亦た一つのみ高く出づるものにあらず、必ず數多の山が互ひに相連りせるは知れ渡りたる理由なり。此に於てか山脈と成りて、互ひに相連りするものなり。山に火山なるものあり、

○山 岳

地殻の内部に在る熔岩が、其の弱き處を破つて、地球表面に噴出し、其噴出したる熔岩さては土砂などが、長き年月の中に、次第に堆積して、高くなりたるものを云ふ。故に他の山脈と異なりて、地殻に生ぜし皺の動きものにあらず。故に火山は特に其場處に生ぜしものなり、然れども地殻に生ぜし皺の弱き部は、互ひに相連るを以て、其弱き部分の徑路に當りたる處には、必ず火山の生ぜるものなり、因て其弱き部の相連りたる徑路を火山脈と稱す。火山は斯の如くにして生ぜしものゆへ、其形は概ね圓錐形にして、其頂上には必ず噴火口あり、噴火口は地中より熔岩が地盤を破つて噴出せる其口なり、又た火山の麓は長く廣く平なる原野を爲す、即ち裾野なり、彼の有名なる富士裾野の如き是なり。

火山とは地殻に生ぜし皺の或る部分が、非常に弱くなりて、地球の内部にある熔岩が、其の弱き處を破つて、地球表面に噴出し、其噴出したる熔岩さては土砂などが、長き年月の中に、次第に堆積して、高くなりたるものを云ふ。故に他の山脈と異なりて、地殻に生ぜし皺の動きものにあらず。故に火山は特に其場處に生ぜしものなり、然れども地殻に生ぜし皺の弱き部は、互ひに相連るを以て、其弱き部分の徑路に當りたる處には、必ず火山の生ぜるものなり、因て其弱き部の相連りたる徑路を火山脈と稱す。火山は斯の如くにして生ぜしものゆへ、其形は概ね圓錐形にして、其頂上には必ず噴火口あり、噴火口は地中より熔岩が地盤を破つて噴出せる其口なり、又た火山の麓は長く廣く平なる原野を爲す、即ち裾野なり、彼の有名なる富士裾野の如き是なり。

我國に在る火山の中に於て、現今盛んに頂上の噴火口より、水蒸氣に土砂岩石の破片等を混じて、噴き出せるものあり、又た或る時代に噴火せしも、現時は

スルモミ存
ヲトモ存セ
ザルモノ通
リアノ三通

徑路トハ
火山脈トハ
互ヒニ連
ナリテス
ナリテス

マツカリ
岳ハ北海
道ノ後志
ノ國ニ在

其噴火を休みつゝあるものあり。

或は長き以前の時代に噴火して、今は其形跡を認むる能はざるも、只だ其山を爲せる岩石土砂等の容子を見る、以て其火山たるを知ることを得るものあり、我國にて此の種の狀態に在る、最も著しきものは富士帶山脈に連なりて、富士山の東南方に在る愛鷹山の如き是なり。

我國は火山甚だ多く、地理學者の調査終りて火山と稱せらるゝもの、其數二百余あり、其中に於て山の最も高く其名の世に響き渡れるものは、富士、箱根、天城、三原、淺間、阿蘇、霧島、那須さては北海道のマツカリ岳等を初めとして、其數五六十余の多きに及ぶ。

◎我國の山脉

我國は數多の大山脈互ひに連絡して、地殻を形成するが故に、全國の各島大山脈の相連り相重ならざるはなし、然れども此の數多の山脈は、二大山系が互ひ

○我國の山脉

山脈ニハ
必ズ一ツ
ノ山脈
リ又左右
ニ小山脈
エ出スモ
ナシ

海没ストハ
海入リマツ
テ依リマツ
テコトヲ
云フ

に枝葉を出したるに外ならず、因て我國の地形を構成する其の基礎は、二大山系の東北より來るものと、西南より來るものとの二となす。

此山系の因つて起り來たる源に二あり、一つは樺太にして一は支那なり、故に樺太より起り來る山脈と、支那より起り來る山脈とが、互ひに延び交りて、更に數多の山脈を出して以て、我國を構成せるなり。

數多の山脈相連りたるものを山系と云ふ、即ち我國は樺太山系と支那山系の二つより成る、支那山系を又崑崙山系と稱す。

樺太山系は其源樺太嶋にして、即ち我國の北方樺太に起り、南に走りて北海道の北端に出で、南端に一直線に走り、日高の襟裳岬に達して太平洋中に没す、是れ即ち北海道山脈なり、而して又た北海道嶋に於て岐れたる樺太山脈の一派は、本洲嶋の東部に起りて、北山々脈と成り、陸前の松島灣附近に至りて、太平洋中に没し、更に又た阿武隈山脈を起して、南に走りて築波山脈と成つて、太平洋中に没す、其阿武隈及び築波山脈より岐れたるものは、即ち足尾山脈關

東山脈及び房總山脈なり、而して此等の諸山脈は皆本洲の中央部に走りて、西南方より來る支那山系の諸山脈と相合す。

◎支那山系又崑崙山系

支那山系は遠く支那の崑崙山に發して、九州島の西部に起り、二つに岐れて、其一は九州嶋の南部を走りて四國嶋に至り、四國山脈と成り、更に本洲島に入りて紀伊山脈及び赤石山脈と成りて、相共に東北に走り、本洲嶋の中央部に至りて、東北より來る樺太山系の諸山脈と相合す。

其一は九州島の北部を走りて、本洲嶋に入り、中國山脈と成り、木曾山脈と成りて、本洲島の中央部に於て同じく樺太山系の諸山脈と相合す。

此故に本洲島の中央部は、土地殊に高く、且つ其幅も最も廣くして、大なる山脈に富みり乗鞍岳、御岳赤石山等の高山相登ゆるは、以上の關係に依りて地形の然らしむる所なりとす。

結合点ト
ハ諸方ヨ
リ米レ山
脈ガ結ヒ
合テ即チ
本洲即チ
中洲ナリ

以上の二大山系互ひに相連続して、我が地形を構成せるが故に、我が國の地形は東北より西南に長く延びて、本洲島の中央部が、土地の幅最も廣く且つ土地最も高きなり。

尙ほ更に我國各嶋に於ける、山脈の状態を詳かに記せば左の如し。

◎本洲島の山脈及び此に屬する山岳

我國を構成せる二大山系の結合點は、本洲の中央なるを以て、高く大なる山脈は多く此中央部に在り、故に乘鞍岳御岳赤石山等の其の高さ一萬尺以上に及べるものゝ多々あるは、本洲の中央部とす。

本洲嶋の山脈を大別して十二とす、此に八個の火山脈を以て、合して二十とす、火山脈及び其に屬する著名の火山は次章火山の條に於て詳記せり。以下同じ

本洲嶋に在る十二の山脈は

- 一 北上山脈
- 二 阿武隈山脈
- 三 關東山脈
- 四 房總山脈
- 五 三國山脈
- 六 赤石山脈
- 七 木曾山脈
- 八 飛彈山脈
- 九 高洲山脈
- 十 鈴鹿山脈
- 十一 紀伊山系
- 十二 中國山系

とす此の十二山脈に屬する著名なる山岳を擧れば左の如し

三上山脈には 早池峯あり

阿武隈山脈には 築波山 八溝山 及び 足尾山あり

關東山脈には 甲武信山(甲斐武藏信濃の國境に峙つ山)

武甲山、三國山、白髮山、國司ヶ岳、笹子峠、小佛峠、雲取山、大菩薩峠等の高山あり。

房總山脈には 鹿野山、清澄山、鋸山等あり

三國山脈には 吾妻山、白根山等あり

赤石山脈には 赤石山、身延山、北ヶ岳、駒ヶ岳、釜無山等あり

木曾山脈には 駒ヶ岳、惠那山等あり

○我國の地勢

飛騨山脈には 乘鞍嶽、御嶽、立山、鎗ヶ嶽、大蓮華嶽等あり
 高洲山脈には 金北山、高洲山等あり
 鈴鹿山脈には 鈴鹿山、膽吹山、多岐山等あり
 紀伊山系には 高野山、天井山、大臺原山等あり
 中國山系には 比叡山、愛宕山、比良山等あり

◎四國島の山脈及び此に屬する山岳

四國嶋には 四國山系東西に走り、其南北に走れるものは即ち讃岐山脈にして此に阿蘇火山脈通す。

四國山系には 劍山の高山あり
 讃岐山系には 雲邊寺山、及び別子山等其重なるものなり

◎九州島の山脈及び此に屬する山岳

九州嶋には 三個の大山脈と、一個の火山脈とあり、其三個の大山脈とは、筑

北海道ノ山脈正シハ
 規則正シニ
 延ビテ横ニ
 ルカテ丁
 度十文字
 ニ成ツト
 井ノコト

豊山脈・肥筑山脈及び南部山脈にして
 筑豊山脈には 天山、虚空藏山、領巾振山等あり
 肥筑山脈には 英彦山、其名高くして
 南部山脈には 祖父ヶ嶽、市房山等最も著名なり

◎北海道本島の山脈及び此に屬する山岳

北海道本嶋には北より南に縦断せる山脈も、西より東に横断せる山脈もあり、其形は十字形をなして、四方に廣がる、故に其中部たる石狩天塩附近は土地最も高し。

南北に亘れる山脈を分けて三とす、即ち東北山脈日高山脈増毛山脈とし、東北に亘れる山脈を分けて二とす、即ち渡嶋山脈、千軒山脈にして、此に千嶋列嶋より來れる、火山脈千嶋帶山脈と後志山衆との二大火山脈通す。
 東北山脈には 北に宗谷嶽、南に天塩嶽あり

澤中ニ
海峽ニ
地ニ於
堆積物
脈相連
ニテ海
中ニ海
陸ニ無
ア陸ニ
山脈無

日高山脈には 南に神威嶽、北に竿呂嶽、及び十勝嶽あり
増毛山脈には 西に増毛山あり
渡嶋山脈には 南に惠山、駒ヶ嶽あり、北に大川嶽、遊樂部嶽あり
千軒山脈には 千軒山、知内山、其有名なるものとす

◎臺灣嶋の山脈及び此に屬する山岳

台湾嶋には其島の形状に従ひ、南より北に亘れる大山脈あり、之を台湾主脈と稱す、此の主脈と臺灣火山脈の二つ相通す。
臺灣山脈には 其中部に大高山あり、即ち新高山と云ふ我國第一の高山なり、此に次くものは雪山、南馬山乃至は觀音山等なりとす。
彼の千島列嶋の如き、琉球群嶋の如き、其から其れへと海を隔て、相連れるは是れ海洋中を走る山脈が其頂を海面に高く現はしたるものに外ならず、而して千嶋列島は前にも云ふ如く、霧領カムチャツカ半嶋より來りて、北海道本島に

風雨ニ對シ
脈ノ對シ
用テハ風雨
及ビトクハ
爲メニ風雨
流ノハ砂ヲ
其ノハコト
ナリシコト
此ノ山脈ニ
見エテシキ
見エテシキ
風雨ニ對シ
脈ノ對シ
用テハ風雨
及ビトクハ
爲メニ風雨
流ノハ砂ヲ
其ノハコト
ナリシコト
此ノ山脈ニ
見エテシキ
見エテシキ

入れる火山脈の徑路にして、同列島には有名なる火山ありチャチャ岳チャカ是なり
琉球群嶋には亦た臺灣島より來りて、九州島の南部に入れる即ち霧島火山脈の徑路あるも、著しき火山は同群島に認めず。
山脈よりは其地質に因りて、金、銀、銅、鐵等の金屬岩石及び石炭石油等を産出す、又檜杉松等の大木を養ふ。
火山脈の徑路には、温泉の湧出する處多し、是れ地熱の爲めに地中の水湧き出るに因るなり。
山脈の形状は一樣ならず火山脈は概ね其頂尖りて麓に廣く長く裾野を引けり、即ち富士山の如し、又た長き年月の間に外より來る風雨等の山脈に對して、絶へず働く其の作用に因りて、或は峯を幾個にも削られ、谷を穿たれて、其峯幾個にも別れて、宛然小なる山脈の相重なれるが如き外觀ガイカンを呈するもあり、
鋸ノコギリ山ノコギリの如き其一例なり。

◎火山岳

○我國の地勢

地熱ノ中
ニ在ル土
砂岩ノ
其質チ
シタル
モ

岩汁ノ
岩石ノ
カレン
モノ

灰烟ト
土砂ガ
ノ如ク
出ルコ
ト

我國二大山系の間に火山脈系相交る、火山とは前に記せし地殻の弱き部分を、地球の内部に於ける地熱の爲めに、岩の熔かされたる物が、勢に乗じて其の弱き部を破り、地上に噴出して山を爲せしものにてあれば、火山は悉く燒土を以て成り立ち、樹木の發育を營むこと能はず。

火山に活火山と息火山との別あり。

活火山とは現今盛に岩汁、灰烟を噴出しつゝある火山のことを云ひ。即ち我國の淺間、霧島、阿蘇等の諸山の如し。

息火山とは或る時代に、岩汁灰烟を噴出せしことあるも、現今は其れを中止して居る火山の事を云ふ、即ち我が國の富士山、恐山、温泉嶽等の諸山の如し

◎火山脈

我國の火山脈系は左の如し

○本洲島の部

本州嶋には富士火山帯の外に、三個の火山脈系あり。

富士火山帯とは、樺太支那の二大山系が、本洲の中央部に於て互ひに相接する處に於て起る、即ち富士山其源にして、南に走り伊豆半嶋を經斷して、太平洋中に入る、其太平洋中に至りて走りたるものが、洋中の諸處に噴起して、伊豆七島、小笠原嶋、硫黄島等を造る、故に伊豆以南の太平洋上に在る諸島は、富士火山帯の太平洋中に入りて走れる、其徑路に於て著しく噴起し、其頂を海洋中に現はせしものに外ならざるなり。

陸奥火山脈は、本洲の東北端なる斗南半島の恐山に發して西南に走り、那須山の近傍に於て二と成り、一は日光方面に走りて、日光火山脈を造り、一は富士山方面に走りて、帝釋火山脈と成りて富士山に合す。

羽越火山脈は、鳥海山の附近に發して西及び北に走り、月山湯殿飯豊等の諸山を成し、其れより岐れたるものは即ち彌彦火山脈にして、牡男半島に達し、而して日本海中に入りたるもの、海中に於て更に噴起し、粟生島及び飛島を造る。

○我國の地勢

火山脈ノ
系路ニ於
テ噴キ出
タルモノ
ヲ云フ

佐渡ノ金山第一ノ
北山ハ我
國第一ノ
金山ナリ
又タ金花
山トモ云
フ

櫻嶋ハ櫻
島火山脈
ノ別ケテ
大キク其
頂ヲ海中
ニ出セシ
モノナリ
櫻嶋ノ櫻
發ハ安永
八年ニシ
テ紀元一
千七百七
十九年ナ
リ

三十九
白山火山脈は本洲嶋の北部山陰道の中央より起り、三瓶大山等の高山と成りて、東に走り加賀の白山に至つて終る、此他に隠岐火山脈なるものあり。隠岐火山脈は、長崎港の西方なる五島の笹山に發し、海中を東北に走りて隠岐の諸島を造り、再び海中に没して遠く能登半嶋に沿ふて北に走り、佐渡嶋に達して同島の金北山に終る。

○九州島の部

霧島山は九州に於ける有名なる大活火山にして、其源は南方遠く臺灣より起つて北に向つて走り、其徑路に於て其の頂を高く海洋中に出して、琉球列島を過ぎ、九州の南岸に來つて櫻島と成り、開聞嶽と爲り、更に進みて愈々高く、即ち霧島山と成りて北西に走りて金峯山と成り、温泉嶽と成りて終る、又た一つの火山脈は、即ち亦た有名なる阿蘇火山脈にして、其源は九州の中央部たる阿蘇山に起り、豊後の東都より海中に没して、更に四國に渡りて高繩石絶等の高山と成り、本洲嶋に入りて終る。

○北海道本島の部

北海道島の火山脈は其源を露領の「カムチャツカ」半嶋に發し、千嶋列嶋を過ぎて根室海峡より、北海道本島に入り、一直線西方に走りて、斜里嶽阿寒山等と成つて、中央に進み石狩山と成りて終る。

○臺灣島の部

臺灣島の火山脈は其源澎湖嶋より來り、大屯山、三貂山と成りて海洋中に没し更に琉球列島を斜めに、九州島に入り、霧島火山脈と成つて、九州の西北部に至りて終る、以上は我國の火山脈系の關係なりとす。更に我國の各島に於ける著名なる火山を、其火山脈系に區別して列擧すれば左の如し。

◎本洲島の火山脈及び此に属する火山

本洲嶋には八個の火山脈を有す

一富士帶山脈。二陸奥火山脈。三那須火山脈。四日光火山脈。
 五帝釋火山脈。六羽越火山脈。七彌彦火山脈。八白山火山脈。
 一富士山。箱根山。天城山。八ヶ岳。駒ヶ岳。戸隠山。立科山。三原山。妙高山。愛鷹山。伊豆大嶋。
 二陸奥火山脈に屬する著名なる山岳は左の如し
 恐山。盤梯山。吾妻山。八甲田山。十和田山。岩手山
 三那須火山脈に屬する者は 那須山とす
 四日光火山脈に屬する著名なる山岳は左の如し。
 赤城山。男體山。白根山。高原山。淺間山。榛名山。妙義山。
 五帝釋火山脈に屬する著名なる山岳は左の如し
 帝釋山。赤安山
 六羽越火山脈に屬する著名なる山岳は左の如し

鳥海山。飯豊山。月山。湯殿山。駒ヶ岳。岩木山。
 七彌彦火山脈に屬する著名なる山岳は左の如し
 彌彦山。寒風山。其他粟生島及び飛嶋も此に屬す
 八白山火山脈に屬する著名なる山岳は左の如し
 白山。三瓶山。大山。
 他に信濃に淺間山あり

◎九州島の火山脈及び此に屬する火山

九州嶋には二個の火山脈を有す
 一霧嶋帶山脈。二阿蘇火山脈
 一霧嶋帶山脈に屬する著名なる山岳は左の如し
 霧島山。開闢岳。御岳。櫻嶋。金峯山。温泉ヶ岳。
 二阿蘇火山脈に屬する著名なる山岳は左の如し

阿蘇山

◎四國島の火山脈及び此に属する火山

四國島には阿蘇山脈の九州嶺より來るものゝみにて。此に属する著名なる山岳は左の如し。

石碓山。高瀬山。

◎北海道島の火山脈及び此に属する火山

北海道島には千嶋より來れる千島帯山脈あるのみにて、此に属する著名なる山岳は左の如し

阿寒山。雌阿寒山。硫黄岳。斜里山。良牛山。石狩山等にして、千島列島に在るは千島火山脈なり

他に後志に樽前山の大活火山とマツカリ岳の大息火山あり、共に千嶋火山脈系

散在トハ
飛々ニ成
ツテ在ル
コト

の殊に著しく噴起せしものにて、後志山彙の名あり。

◎臺灣島の火山脈及び此に属する山岳

臺灣島に在る火山脈は、澎湖嶺より來れる臺灣火山脈一つあるのみにて、此の火山脈が臺灣島より海中に入りて、霧嶺火山脈に連る、臺灣火山脈に属する火山は左の如し

三貂山。大屯山。

以上は我國の各島に散在せる火山脈及び其に属する火山なるが此の中に於て、所謂る活火山なるものと、息火山なるものとの別あり、今其中に於て重なる活火山と、息火山とを更に區別して示せば左の如し。

本洲島に在る著名の活火山は、

那須山。浅間山。三原山。

の三山にして九州島に在る著名なる活火山は

霧島山。阿蘇山。

にて北海道島に在る大活火山は、即ち千鶴火山脈の餘派と見なすべき、樽前山とす、樽前山は後志に在り

四國島及び臺灣嶼には著名なる活火山なし

本洲島に在る息火山の重なるものは。

富士山。恐山。岩木山。白山。盤梯山。吾妻山。

等其著しきものにて、九州島に在る息火山の重なるものは

温泉ヶ岳。櫻嶋。開聞ヶ岳等にして

北海道島に在るものは

雌阿寒山。駒ヶ岳。硫黄岳。良牛山。斜里嶽。石狩山等なり

以上説く如く我國の山脈は、火山脈と互ひに相連合して、東西南北に延び廣がるを以て、全國到る處に火山のあらざるはなし、故に彼の盤梯山の破裂せる如き、近くば小笠原列島に屬する硫黄山の附近の太平洋中に、新たに小嶋の噴出

海山脈ノニ
陸地ニ於
ク走ルガ
井ノハ新
黄鵠ニハ
ノ成起ル
シニ微カ
テ明カナ

地熱トハ
ニ熱セテ
レタルガ
岩ガ地上
ヘ噴出ス
ルコトニ
テ即チ地
面ヲ破リ
テトナセ
ル

割裂トハ
サケアラ
ルコトヲ
云フ
其割裂ハ
地中ニ於
テ生ズル
モノナリ

せし如き、甲は息火山の状態に在りしものが、地熱の關係に依りて、突然破裂せるものにて、乙は富士帶山脈の太平洋中に在るものが、噴出して洋上に一島を造りたるものにて共に火山脈の破裂なり。
斯の如くなるを以て、目下息火山の状態に在るものと雖ども、時に恐しき爆發をなして活火山の状態に變せむも知れず、淺間秀島等の如き目下盛んに灰烟岩汁を噴出せる大活火山と雖ども、又た或は時に其噴出を止めて、息火山の状態に變せむも圖られざるなり。

我國に温泉の諸處に噴出せる者多きも、亦た屢次地震の起るあるは、是れ皆な火山のあるに因るものにして、地震は即ち地殻に地熱の作用に依りて、割裂を生じ、而して其一部が、其割裂に依りて崩るゝ際に起る變化を云ふ。

◎練習問題

○我國を構成せる基礎と成る物を問ふ

○我國の地勢

- 我國の地勢の状態を問ふ
- 我國の地形は中央部に於て必ず高しと云ふ理由如何
- 平地とは如何なることを云ふや
- 山岳とは如何なる理由に依て生ぜしものか
- 山脈とは地理學上に依て如何なる説明を下すや
- 火山及び火山脈の説明を爲せ
- 火山の特徴を問ふ
- 我國にて火山の特徴を最も満足に具へてる山は何山なるか
- 我國二大山系の名稱并に方向を問ふ
- 活火山と息火山の區別を記せ
- 我國に在る火山の種類を問ふ
- 我國に在る活火山の重なるものを示せ
- 我國に於ける息火山の重なるものを示せ

通路トハ
火山脈ノ
通過ナル
コト
涌出トハ
ノキ出ル
コト

- 地震とは如何なる變化を云ふか
- 我國には何故に地震多きか
- 山脈の形状一樣ならずと云ふ理由如何
- 山岳は人類に對して如何なる供給をなすか
- 我國近海に在る各群嶺は如何なるものか

◎ 温泉

火山脈系の通路に當れる處には、屢次温泉の涌出するあり、温泉とは地球の中心に在る熱の爲めに、地中に在る水の熱せられて、地上に送り出るものを云ふ。

我國の如く到る處火山脈に富む土地には、温泉の數頗る多し、温泉には其湧き出る土地の地質に因りて、其水に亦た種々の類あり。

我國の温泉の種類は、硫黄泉最も多く、此に次ぐものは鹽類泉にして、其他に

間歇温泉
アトキ定メ
ルモノナ
云フ

高燥トハ
土地ガ高
クシテ熱
氣ノ少ナ
キコトナ
リ

河流トハ
ナリ
ナリ
コト

炭酸泉、鐵泉、含塩泉等あり。

温泉の中に間歇温泉なるものあり、間歇温泉にて我國第一等と呼ばれて、其名全國に響びけるは、即ち伊豆の熱海なりとす、又た我國にて有名なる温泉は熱海伊香保箱根有馬山中道後別府等なり。

温泉の涌き出る土地は、概ね高燥にして空氣の流通よく、且つ寒暖の差極めて少なきを以て、人間の健康を助くること別けて多し。

温泉の温度は一樣ならずと雖も、我國にて温泉の温度最も高きは熱海、有馬、伊香保等にて、其高きものになれば百度以上に昇れるものありと云ふ。

◎ 練習問題

- 温泉とは如何なる物を云ふや
- 温泉は如何なる場處に多くありや
- 我國に在る温泉の種類を問ふ

凡テ川ノ水ハ
枝川ノ所ニ
ガツテテ大
成ツテテ大
川ニシテテ
而シテテ海
洋ニシテテ
入ルニシテ
ナリ

河口トハ
川ノ入ル所
其ノ入ル所
ナリ

土地味ノトハ
シテテ宜シ
作ルニ便チ
利多キニ便
トナリ

航運盛ナリ
ノ便盛ナリ
ノ往來盛ナ
ルノ往來盛
ナルヲ以テ
テ工業盛ナ
リ

○ 間歇温泉とは如何なる状態の温泉を云ふや

○ 我國の著名なる温泉を列記せよ

◎ 河流

河流とは高處に於て發でたる水の、低に從ふて次第く、其の近傍の水を合せて海に流れ入る、其の水の流るゝ路のことを云ふ。

河流の通ずる沿岸及び其の海に流れ入る口、即ち河口には平野必ず多し、故に我國の各河流に沿へる各地、及び各河口は一般に平野にして、農業牧畜等の業盛んに、且つ人の住へる數極めて多し。

是れ河流の通ずる附近は、其河水の灌漑を得て地味大に肥ゆると、航運運輸の便盛なることを以てなり。

地味肥ゆれば農業牧畜の業に適するを以て、人は喜んで其處に樂り、航運運輸の便盛なれば、商工業を營むに便なるを以て、亦た人は喜んで此處に來る、因

ナ起スニ
運スナリ
山脈ノ兩
側ノ左右
ノコトナ
云フ

分水線ト
ハ河流ノ
方向ヲ分
ツ其源ヲ
云フナリ
河流ノ大
ナルト云
フハ其市
チ云フニ
アラスシ
テ其流ノ
長キコト
ナキコト
ナリ

て河流の沿岸河口等には、必ならず大なる都會あり。
我國の東京の如き、大阪の如き、京都の如き、さては名古屋廣島等の如き大都
會は、皆な河流の河口乃至は沿岸の地なり。

我國は其地形細く長くして、五大島とも悉く中央に大山脈縦横に延長して、山
脈の兩側海岸に赴くに從ふて、次第に低く傾けるを以て、亞細亞其他の大陸に
於て見るが如き、著しく長き河流は更に無し、我國に於て其長さ百里に及ばむ
とする河流は、本州に信濃川と、北海道本嶋に在る石狩川とのみ、殊に我國の
河流は各嶋の中央にある山脈に源を發し、即ち山脈其分水線となるを以て、其
流れ一般に急激にして、彼の大陸に在る河流の如く、上流中流下流の三つを備
ふるものなく、上流中流のみありて、下流を欠くもの殊に多し、此故に航運運
輸の便を與ふるもの極めて稀なりとす、然れども其流れ急激なるを以て、其水
力を利用して或は電氣を起し、或は器械を運轉せしめて、諸工業の發達を助く。
我國の河流の方向は極めて單純なるものにて、其山脈の方向に從ひて、東西南

利ヲ用トハ
工合ヨク
云フコト
水車等ハ
水ノ力ヲ
用ユルモ
ナリ

中央ノ大
山脈トハ
樂山トシ
岳等ナリ

北に流れ、太平洋、北海、日本海さては瀬戸内海、臺灣海峡等に流れ入るもの
とす。

我國に於ける河流の、殊に著しきものは、信濃石狩の二川を始めとして、此に
次くものは北上、阿武隈、利根、木曾、淀、吉野、筑後、天龍、淡水等の諸川
とす。

◎本洲島の水系及び著名なる河流

本州嶋の水系を大別して、東部中部及び西部の三とす。

東部に在るものは其源を中央部の大山脈に發して、其一は太平洋に注ぎ、又の
一は日本海に注ぐ。

中部に在るものは、其源を木曾、飛驒の山脈に發するものと、鈴鹿、紀伊等の
山脈より發するものとの二あり、而して共に或は太平洋に注ぎ、或は日本海に
流入す。

西部にあるものは其源を中國山系に發して、其南するものは瀬戸内海に注ぎ、其北するものは日本海に入る。

本州島の水系に屬する著名なる河流を擧ぐれば左の如し

(イ) 太平洋に流れ入る河流

北上川。阿武隈川。利根川。荒川。那珂川、馬入川。富士川。大井川。天龍川。木曾川。揖斐川。宮川。

等其重なるものなり。

(ロ) 日本海に流れ入る河流

信濃川。能代川。最上川。阿賀川。御物川。神通川。九頭龍川。庄川、由良川。江の川。日野川。朝來川等とす

(ハ) 瀬戸内海に流れ入る河流

吉野川。淀川。紀の川。東大川。西大川。錦川。太田川等大なるものなり

◎ 四國島の水系及び著名なる河流

四國島の水系は、其源四國山系と讃岐山脈とより發し、共に其方向に従つて、太平洋及び瀬戸内海に入る

(イ) 太平洋に流れ入る河流

物部川。仁淀川。渡川とす

(ロ) 瀬戸内海に流れ入る河流

那賀川。吉野川等なり

◎ 九州島の水系及び著名なる河流

九州島の水系は、南北の二つに分つ、其北部に在るものは源を肥筑山脈、及び阿蘇火山脈に發して、四方に分れ其の方向に従つて、太平洋瀬戸内海日本海及び支那東海に入る。南部に在るものは南部山脈及び霧島火山脈に發して、其東

中央部ノ
山脈集合
スル處ト
ハ天竺ノ
國附近ナ

せるものは太平洋に注ぎ、其南せるものは支那東海に入る。 五十四

(イ) 太平洋に流れ入る河流
五個瀬川。美々津川。大淀川とす。

(ロ) 日本海に流れ入る河流
遠賀川にして。

(ハ) 瀬戸内海に流れ入る河流
大野川とす。

(ニ) 支那東海に流れ入る河流
筑後川。矢那川。玖摩川。川内川等なり

◎北海道本島の水系及び著名なる河流

北海道本島の水系は、其中央部の大山脈集合する所より發して、三方に岐れ、各其方面に従ひて、太平洋日本海北海に入る、又た後志山嶽に源を發して、日

本海に入るものあれども、其河流は小にして記すべきほどのものなし。

(イ) 日本海に流れ入る河流
天竺川。石狩川。

(ロ) 太平洋に流れ入る河流
釧路川。十勝川。沙流川。

(ハ) 北海に流れ入る河流
常呂川。網走川とす

◎臺灣島の水系及び著名なる河流

臺灣島の水系は南より北に縦断せる、即ち臺灣主脈に其源を發して、東せるものは太平洋に入り、西せるものは臺灣海峡に入る。

(イ) 太平洋に流れ入る河流
臺東溪にして。

南緯ヨリト
ニ互リテ北
大山脈ガ
縦ニ貫ヒ
島ヲ井ルコ
トナシ云フ

河口ニ都
市名色ノ
一般ニ在
ルハ交通
便ナク
盛テ人ヲ
以テ商ノ
其盛ニ工
業ヲ集メ
故ニ或ハ
市街或ハ
為スナリ

臺灣海峡に流れ入る河流
淡水河、下淡水溪、濁水溪等其名高し

我國の各島に於ける、最も著名なる河流は、以上の如くにして、此等河流の沿岸は、一般に平野相連りて地味殊に肥へ、住民は農業牧畜等を盛んに營み、又

た其河口には概ね都市名邑ありて、商工業別けて盛なり。尚ほ以上の諸大川の中別けて長く大なるものは、信濃利根石狩の三川にして、之れを日本の三大河と云ふ、又た流の最も急なるものは、最上富士玖摩の三川にして、之を三大河に對して日本の三急流と稱す。

◎練習問題

- 河流とは如何
- 河流の沿岸及び河口の地は人類の生活に適すと云ふ其理由は如何
- 河流の下流とは如何なる状態を云ふや

出口ノ水ハ
湖沼トヘ
ガ他ノ水
ヲ出ズカ
レ出カニ
細ク開カ
レテ流ル
口ナリテ
田川ヲ如
キハ即チ
窪湖ナリ
出サナリ

- 我國著名の河流名を詳記せよ
- 本洲島の水系を問ふ
- 四國島の水系を問ふ
- 九州島の水系を問ふ
- 北海道本嶋の水系を問ふ
- 臺灣島の水系を問ふ
- 我國に於ける急流なる河流を記せ
- 河流の通過する沿岸は地味肥ゆと云ふ理由如何

◎湖沼

湖沼とは平野及び山間の平地の、著しく凹みて四方より来る水、此に集り更に出口より其水低に流れて、海流の源を爲すものを云ふ、中には出口なくして、其水常に静止し居るものもあり。

○我國の地勢

水産トハ
淡水魚チ
多ク産ス
ルトナ

湖沼ヨリ
枝川ナリ
ガ四方八
方ト流レ
出テ田

山中ノ湖
沼ニ附
ニ温泉
涌キ出
ルハ是
レ山脈
系路ニ
ナリ

舊火山口
トハ或
時代ニ
火シタ
ル其跡
ナリ

我國の湖沼には出口のなきものはなし、故に我國の湖沼は其山間に在るものを除くの外は、河流と毫も異なることなく、交通運輸の便は更なり、水産の利もあり且つ湖沼の水四方に灌漑して、一帯の田甫を養ふ、因て湖沼のある附近には、河流の河口に於けるが如く、繁華の都邑必ずあり、彼の琵琶湖の西南岸にある、大津市の如き、松江湖の畔に在る松江市の如き即ち其なり。

我國は地形細く長きが故に、著しき大湖なし、我國第一の大湖は即ち滋賀縣の琵琶湖にして周回七十四里面積四十四方里あり、此に次ぐものは千葉縣の霞浦にして周回三十五里余、次は猪苗代湖にして周回十六里余、其他八郎瀧安道等其最も大なるものなり。

其山間に在るものは、箱根山中の蘆の湖、日光山中の中禪寺湖、富士八湖及び山中湖等其最も大なるものなり。

山間に在る湖水は、別けて風景に富みて、其附近には概ね温泉の勝地あり、其は火山の舊噴火口が長き年月の中に變化して、湖水と成りしもの多ければなり、

即ち箱根の蘆の湖、日光の中禪寺湖、富士の八湖の如き其例なり。

今我國に在る著名なる湖沼を列舉せば左の如し。

◎本洲島に在るものは

- 琵琶湖。霞ヶ浦。猪苗代湖。中海湖。宍道湖。八郎瀧。濱名湖。印旛沼。十和田湖。諏訪湖。小河原湖。北浦。蘆の湖。中禪寺湖。山中湖。富士八湖。北瀧。河北瀧。十三瀧。手賀沼。牛久沼。酒沼等なり

◎北海道本嶋に在るものは

- 猿間湖。綱走湖。風連湖。支笏沼。洞爺湖等なり
- 九洲島に在るものは、楫宿湖、鴨生田池等其重なるものにして、臺灣島にては打狗瀆最も大なり、而して四國島には湖沼の著しきもの更になし。

◎練習問題

○我國の地勢

○湖沼とは如何なるものを云ふか

○湖沼のある處には都市名邑ありと云ふ理由如何

○山中の湖沼は重に何に依て生じたるか

◎海流

海流とは陸地に於ける河流と同じく、海水の一つの運動にして、其の海水が定まつたる方角に向かつて、絶えず海洋を流れゆく、其海水の流を云ふ、此の海流の性質に二種あり。

其一は赤道地方に於て、太陽の熱を受け海水が温暖を帯びて流れ来るものにして、暖流と云ふ。

其二は寒帯地方に於て、寒氣を受け海水が寒冷を帯びて、流れ来るものにして、寒流と云ふ。

暖流は一に黒潮と云ふ、其は此の暖氣が我が國の近海に來ると、其色が殊に濃

海流ノ其性
質トハ行
ク方角ナ
ク方角ナ
ハナイテ
海水ガ暖
カイトカ
又タ冷タ
イトカト
ナリ
我國ノ海
岸ナ極地
ハ北極地
方ノ寒氣
ヲ帶ビ來
ルナリ

フィリッ
ピン群島
ハ南洋ノ
南方ニ在
リ米領ナ
リ

交流トハ
本流ヨリ
岐ナリ

オホーツ
ク海トハ
千島列島
ノ北方ニ
在リ
帯ノ海ナ
ク
金華山ノ
沖ニ於テ
寒流ガ突
シテ其ノ
勢ニ乗ツ
テ流ルル
ナリ

藍色を呈するより、此名あり、又た寒流を一に親潮と云ふ。

我が國の各沿岸を流るゝ海流は、暖流と寒流の二とす、我が國の沿岸を流るゝ暖流を、日本海流と云ひ、寒流を千島海流と云ふ。

日本海流は、世界に其名高き暖流にして、赤道地方より北に走り、「フィリピン」群島の東部より、北に向つて我が國の太平洋岸に來り、九州の西南部に於て、一つの支流を出す、其支流は所謂對馬海流にして、九州の西岸より對馬を繞り、對馬に於て自然と二つに岐れて、一つは對馬海峽を経て、日本海に進み、本州嶮及び北海道本嶮の西岸に沿ふて、オホーツク海に入る、一つは朝鮮海峽の東岸に沿ふて、「シベリヤ」沿岸に進む。

さて本流は我國の太平洋岸を東に走り、伊豆の御倉島と八丈嶮との間を経て、房總半嶮に沿ふて、東北に曲り、金華山沖に至りて、漸やく沿岸より離れ、太平洋中を同じく東北に走つて、「北アメリカ」の西岸に達して終る。

千島海流は寒流にして、即ち親潮なり、千島列嶮の東北なる露領カムチャツカ

半嶋の近傍より、西南の方向を取つて千島列島、及び北海道本島の東岸を流れ、北海道本嶋の南部即ち膽振灣の附近より、本州の東岸に沿ひ、金華山沖に至りて、西南より來る暖流と合し、此處にて寒流は暖流の下を流れて、太平洋中に没す。

又た「オホーツク」海の北部より發して、西方に流れ、樺太島に至つて二流と成るものあり。其一は樺太島の東岸に沿ふて流れ、樺太島の南部に於て、又た二つに岐れ、一つは宗谷海峽に向ひ、一つは國後島の沖に去る、是れ即ち樺太海流なり。

一は樺太島の西部、即ち樺太海峽を過ぎて、露領の沿岸に沿ひ、日本海の北部を経て、朝鮮海峽に向ふ、是れ即ち「リマン」海流なり。

我國の沿岸を進行する日本海流と、對馬海流とは、世界第一の暖流にして、此に亞ぐ暖流は「メキシコ」海より發する、歐羅巴の西北岸に向ひ、太平洋を横に走れる、即ち「メシキコ」海流と爲す。

海洋中に暖流寒流等の海流あるは、地球表面に於ける自然の有様なれども、此の海流が陸上の氣候、海洋中に生ずる動植物、及び航海等に大なる關係を有する其の原因と成るは、蓋し説明を要せずして明ならむ。

◎ 潮 汐

潮汐は亦た海水の運動に外ならず、其海流と異なる所以のものは、或る一定の時間に於て、海水が或は満ち或は干くと云ふ機能を營ひ、其有様を潮汐とは云ふなり。

潮汐干満の差は其場所に因て、素より同一ならずと雖ども、凡て其干満の最も著るしき時は、新月と満月の頃とす、其故に潮汐は月球に大なる關係あるや明かなり。

地球表面の水、即ち海水が月球と關係して、或は満潮と成り、或は干汐と成る理由は全く地球と月球との引力の作用に因るものなり。

寒流中ニ
生息セル
魚類ニ
流中ニ
息セル
類ハ全
ク其種
ナ異ニ
ス
或ル一
ノ時中
ニ潮ノ
干中
トナル
コ
機能ト
ハ凡キ
ハ物ト
ノコト
ノ分方
自引キ
ヘ引キ
ケヨツ
ケヨツ
有ス
ナレバ
引ク力
益々強
ト云フ
之ヲ引
力シ

作用ノ力ハ地球ノ引カニ依リテ生ズ

音響ノハ潮流ノシキ依リテ生ズ

潮流とは海水自身が運動する有様にあらずして、潮汐干満の運動に因て、海面に特に生ずる海水の流を云ふ、故に海洋中には、著しき潮流を見る能わずと雖も、海峡には屢々非常に著しき潮流を見る、我國の鳴戸海峡に於ける大鳴戸小鳴戸との如き、蓋し最も潮流の著しきものとす、著しき潮流は雷の如き大なる音響を發す。

◎練習問題

- 海流とは如何なる現象を云ふや
- 我國の海岸を流るゝ海流に幾種の別ありや
- 日本海流とは如何
- 千嶋海流とは如何
- 暖流とは如何
- 我國の沿岸を流るゝ暖流の状態を記せ

形状アリトシテカクシテ支那海ノ

- 寒流とは如何
- 我國の海岸を流るゝ寒流の状態を記せ
- 潮汐と海流の區別を問ふ
- 潮流とは海水の如何なる變化を云ふや
- 干満の差は新月と満月の時に著しと云ふ其理由を記せよ
- 我國の沿岸を流るゝ暖流は何れの方向より來るものなるや
- 我國の沿岸を流るゝ寒流は何の方向より來るものなるか
- 海流は氣候に如何なる關係を持つや

◎海岸

我が國の海岸は西南面は、太平洋及び支那海に面し、東北面は日本海に面す、其太平洋及び支那海に面すると、日本海に面する海岸とでは、其の海岸の形状自から異なるを以て、従つて海岸線の長短も亦た同じからず、即ち海岸の土地

○我國の地勢

ハ東方ナリト
方トスナリ
本洲トス
東部トス
岸出入多
キヲ其出
入著シカ
ラザルナ
以テ大灣
ナキナリ
北端北ノ
ハズレ
成立テキ
アガル
ナリ
突出ツキ
コト
青森灣チ
又トモ云
フ

岸の状態と、南部太平洋に面する海岸の状態とに於ては、自から異ならざるべからず、今順序として其東部海岸の状態より説む。
本洲東部の海岸には、其の海岸の出入多きにも拘はらず、著しき大灣なし、其最も大なるものは即ち青森灣にして、青森灣は本洲島の北端に長く突出せる、斗南半島と其西方なる津輕半島とに因て成立す、故に青森灣の北端は斗南半島にして西端は津輕半島なり。
大間崎は斗南半島の西北端に在り、東北端に在るは即ち尻屋岬なり、而して此尻屋岬より南方房總の半島の北方に突出せる、犬吠岬の南に至るまでの太平洋に面する部の海岸には、松灣崎と牡鹿灣との外、船舶の出入を營むべき大灣更に無し。

◎本洲の南部太平洋に面する海岸の状態

本洲島の南部太平洋に面する東部に突出せる半島は、即ち房總半島にして、野

斗出ツキ
コト
燈臺トス
船便ノ利
航路ノ興
注ルルメ
ハルメ
如キ塔
ナ造リ
火ヲ其
頂ニス

田子油
三保
駿河内
ニ在ル
所ニシテ
其風光
ニ殊ナリ

嶋崎は房總半島の最南端なり。
房總半島の西に斗出せるは、相摸の三浦半嶋にして、其西南端は、觀音崎なり
房總半島と三浦半島とにて、一の大灣を形成す、東京灣是れなり、故に觀音崎と野嶋崎と遙かに相對して、東京灣の口を扼す、觀音崎と野嶋崎とには共に燈臺の設あり。
東京灣内には灣口に砲臺の設けありて、東京灣を守備し横濱、横須賀、木更津等共に灣内に在る有名なる良港なり。
三浦半嶋の西に長く斗出せる半島は、即ち伊豆半嶋にして、其最南端を石廊崎と云ふ、東三浦半島より西伊豆半嶋に至る間の洋上を、相摸灘と稱す。
石廊崎と相並んで遙かの西方に突出せるは、遠江の御前崎なり、石廊崎と、御前崎の間に在る大灣は、駿河灣にして、灣内に江の浦、清水の良港あり、田子の浦三保等は灣内の名地なり。

御前崎の西に在る小灣を濱名灣とす、濱名灣は伊勢海の入口にて、其西に二個

○我國の地勢

の小半島斗出す、即ち知多、渥美の両半嶋なり、此の両半嶋に依て一つの小灣を形成す、即ち衣ヶ浦なり、渥美半嶋の南端を伊良湖崎と云ふ。

知多渥美の両半嶋と相向つて、東に斗出せる半島は是れ即ち志摩半嶋にして、

伊良湖崎と相共に伊勢の海の口を扼す、志摩半島の東南端に在るを大王崎と稱す。

大王崎より東伊豆の石廊崎に至るの洋上を、遠州灘と稱す、伊勢海の内には良

港頗る多し、知多、武豊、四日市、半田等其名殊に高し。

志摩半嶋の西に於て南に斗出せるは紀伊半島にして、半島の最南端を潮御崎と

云ふ、而して紀伊半嶋の東西沿岸は海岸の出入殊に多し、是れ潮水波浪等の爲

めに長き年月の間に、其沿岸の土地を侵蝕されたること別て甚しきに因る、而

して半島の東部沿岸一帯の洋を、熊の浦と呼び、西部沿岸一帯の海洋を紀州灘

と云ふ。

紀州灘より紀伊の北部と、淡路島の東部との間に入れる海を、由良海峡と云ふ

抱すハ其入ヲ
テシラレ
フキミ

潮水ヲ
ホノコト

激浪ハ
シイナミ

侵蝕
シム

ズヨト
クツ

海岸ヲ
水激浪等
ノ爲メニ

侵蝕
シム
コト
ニ
必ズ
シケ
ル
ニ
出
入
地
ヲ
生
ズ

大阪灣
又ノ
海ト
云フ

由良海峽
ニハ
砲台
ノ
股
ヲ
守
備
ス

由良海峽は一に紀淡海峽と云ふ。

紀淡海峽に面する紀伊の北部の西海岸を、和歌浦と云ふ、和歌ノ浦は海岸の風景最も優れたるを以て、紀伊海岸の名所として其名高し。

以上は本洲島の東部及び南部太平洋に面する海岸の状態なり、因て南部海岸は最も良港灣に富む。

◎本洲西部瀬戸内海に面する海岸の状態

瀬戸内海とは大阪灣の西口なる明石海峽より、馬關海峽に至る迄の海上を云ふ

故に瀬戸内海は東に明石海峽と鳴門海峽あり、西に馬關海峽と速吹海峽とあり

此の四海峽を以て内海の口を爲す。

紀伊半島の西海岸の北部の洋上を紀伊水道と爲す、紀伊水道より淡路島の東部海岸と紀伊北部の西海岸との間に入れば、即ち由良海峽にして、由良海峽を過ぐれば即ち大阪灣なり、故に大阪灣は南由良海峽と西明石海峽とを以て限らる

明石海峽は、播磨の沿岸と淡路島の北部沿岸との間を云ふ、大阪灣内には神戸、明石、大阪築港等の良港あり。

瀬戸内海の沿岸は、土地の出入亦た頗る多くして、其東部に在る有名なる灣は備前の兒嶋灣にして、其西部に在る有名なるものは廣嶋灣とす、又た瀬戸内海中の海上に東部を播磨灘と稱し、其中央部を水島灘と云ひ、西部に在るは即ち周防洋なり。

此瀬戸内海は世界に於ける、第一の勝景に富みたる海上なりとす、其は東播磨灘より西周防洋に至る迄の海上には、數百千の大小島綺羅星の如く羅列して、海上の風景其の到る處に趣を異にし、風光の絶佳なる拙なき筆の能く寫し得べくもあらず。

今本洲島の東南岸太平洋に面する、著しき港灣を示せば大畧左の如し。
陸奥灣。宮古灣。釜石灣。牡鹿灣。松島灣。東京灣。浦賀灣。相模灣。下田港。駿河港。鳥羽港。伊勢灣。大阪灣。

二河一港

散在ト
ナツテア
ルコト
其趣トハ
其ノ海岸
ノアリサ
マノコト
ナリ

若狭入江
丹後ノ中
國が海
ニ相並
テ出テ入
ル其間
ヲ

次に本洲島の西部、瀬戸内海に面する海岸に在る、著しき港灣を擧ぐれば左の如し

播磨海。兒嶋灣。廣島灣。吳港。宇品港。周防海。
播磨海の中には牛窓の良港、周防海の中には三田尻の良港等著るし。
又た内海に散在せる數百の小島中にて、其名の著しきものは、小豆嶋、江田嶋、巖嶋等其名最も高し。

◎本洲の北部日本海に面する海岸の状態

本洲の日本海に面する北部の沿岸は、其南部太平洋沿岸とは大に其趣を異にして、土地の出入極めて少なく、其西部に在る半嶋を嶋根半嶋と稱し、丹後と若狭の二國に抱かれたる若狭入江、其他灣と稱すべき著しきものは、能登の七尾灣、及び越中の富山灣あるのみ、其の他は數の中に入らざる小灣にして、船舶の出入に便ならず、而して半島の著しきものは、其中央部に能登半島の北

大陸風ニヨ
ハ大陸ヨ
向テ吹
キ来ル風
ノトナ
寄港トハ
船舶ノト
ト入ルコ
トナ云フ

東方に斗出せると、東部に男鹿半島の斗出せるあるのみ、而も日本海は冬季に際して、シベリヤの大陸風を受ること甚しきを以て、波浪殊に高く、然りと雖も船舶の寄港すべき良港灣に乏しきを以て、冬季日本海沿岸の航海は、大に便利を欠くと云ふ、尙ほ日本海沿岸に於て最も波浪高く航海に非常の危険を感ずるは、能登半島の北端に斗出せる、珠洲岬近傍なりとす。

隠岐嶋に在る良港は西郷港にして佐渡ヶ島に在る良港は真野灣及び夷町とす。

本洲島の日本海に面する海岸には、土地の彎曲出入少なきを以て、従つて良港灣に乏し、今其沿岸に在る重なる港灣を擧ぐれば左の如し。

若狭灣。敦賀灣。七尾灣。富山灣。

若狭灣即ち若狭入江内に在る良港を擧ぐれば。

舞鶴港。宮津港。小濱港。

舞鶴港及び宮津港は、若狭灣内の西岸即ち丹後の東岸にありて、小濱港は若狭灣内の東岸。即ち若狭の西岸に在り

◎ 練習問題

- 港灣長ければ海岸線長しと云ふ理由如何
- 我國現今の海岸線の長さは幾許ありや
- 海岸線を有すること多き國は發達の程度速かなりと云ふ其理由を記せ
- 本洲嶋の東部海岸の状態を問ふ
- 陸奥灣の成立を問ふ并に同灣内の小灣を示せ
- 本洲島の南部沿岸の状態を問ふ
- 東京灣の成立を問ふ
- 東京灣内に在る良港を示せ
- 相模灘の區域を問ふ
- 駿河灣の成立を記せ
- 駿河灣内に在る著名の港を記せ

- 伊勢灣内に在る著名の港灣を記せ
- 大阪灣の成立及び區域を記せ
- 遠州灘の區域を問ふ
- 瀬戸内海の區域及び海中の有名なる嶋を問ふ
- 瀬戸内海に面する海岸の有名なる港灣を問ふ
- 日本海に面する海岸に在る港灣を問ふ
- 日本海に於ける第一の灘所とは何處の邊を云ふや
- 佐渡隱岐両島の港灣を問ふ
- 舞鶴港は何灣内に在るか

◎四國島海岸の狀態

四國嶋の海岸は、其南部は太平洋に面し、北部は瀬戸内海に面す、東部に鳴戸海峽ありて、太平洋と瀬戸内海の連絡を取り、西部に速吸海峽ありて、太平洋

凡そ
ハル
キニ
グ
コ

大鳴戸小
共ニ潮流
ガ以テ
勢ヲ合ヒ
落子合ヒ
テ其流ガ
爲スモ
ナリ其巴
状ノ大鳴
戸ニシテ
小鳴戸ナ
リ
寶戸岬ト
陸岬ト云
フ
風折ウチ
ノ状ヲ云
フ
箱崎ト梶
取崎ト在
ル間ニ

と瀬戸内海の連絡を爲す。

鳴戸海峽には有名なる大鳴戸小鳴戸ありて、潮流の關係より海水渦を巻く、其潮流の響き宛然大雷の如く、一里以外の遠きに在るも能く其響を聞く。

南部太平洋に面する東端に突出せるを蒲生田岬と云ふ、蒲生田岬の西南に斗出せるを室戸岬とす、室戸岬の西南即ち四國嶋南部の西端に斗出するを陸岬とす。

室戸岬と陸岬岬とにて、一つの大灣を形成す、即ち土佐灣なり。

北部瀬戸内海の西端に著しく西方に細長く突出せるを佐田岬と云ふ、即ち速吹海峽のある所なり、佐田岬より南陸岬岬に至るの海岸は、土地の出入殊に甚だしく、宛然鋸の齒の如し。

北部即ち瀬戸内海に面する海岸は、南部海岸より屈折多く、其東部に著しく斗出せるを箱崎と云ひ、西部に著しく斗出するを梶取岬とす、梶取岬と箱崎とに依りて、一つの大灣を形成す、燈臺是なり、梶取岬より以西佐田岬に至る間を

○我國の地勢

海岸ノ帶入セル一帯ヲ指シテ云フ

硫黄灘と云ふ。

四國島は我國五大島中の最も小なるものなるを以て、従つて港灣も少なし、南部太平洋に面する海岸にて著るしきは土佐灣にして、瀬戸内海に面する海岸には伊豫海、即ち燈臺あるのみ。

◎練習問題

- 四國南部沿岸に在る岬を問ふ
- 四國北部沿岸に在る著名なる岬を記せ
- 土佐灣の成立を問ふ
- 伊豫海の成立を問ふ
- 四國島の東部に在る海峽は何なるや
- 速吹海峽は四國島の何處に在るや
- 四國島に於て小屈折の最も多き海岸は何れの方面なるか

志布志灣ハ大隅半島ト都井崎トニ依リテ成立ス

西部海岸ノ小港灣ニ當ルハ我國第一ノ羅列トス

◎九州島海岸の状態

九州嶋は其海岸の出入屈折多きこと、我國第一とす、其東部は太平洋及び瀬戸内海に面し、西部は支那海及び日本海に面す、而して東部海岸は土地の出入甚だしからずと雖も、國東半島の斗出に依りて大分灣を形成し、其の東南に斗出せるは都井崎にして、其西に在る大灣は即ち志布志灣なり。

志布志灣の西方に斗出せるは大隅半島にして、半島の西南端は即ち佐多岬なり。

大隅半島の西南に斗出せるは薩摩半島にして、大隅半島と薩摩半島とに依つて鹿兒嶋灣を形成す、薩摩灣の南方に突出せるものは、即ち開聞ガ崎なり。

西部海岸は土地の屈折出入非常に甚だしく、或は半島と成り、或は灣と成り、其形状喩ふるに辞なし、故に九州嶋の西部はと、大小の港灣多き處はなし。

天草洋は西部の中央にして、海上に大小數多の嶋嶼羅列す、之れを天草群嶋とす。

○我國の地勢

小嶋が星
ノ如クアル
コト

白杵及ビ
佐伯港ハ
共ニ豊後
ノ南岸ニ
在ル瓦
港ナリ
又トモ云
フ

唐津港ハ
佐賀縣ノ
北岸ニ在

有明海ハ
又トモ云
フ

云ふ。

天草群嶋と高來半嶋とに依りて、一大灣を爲す、此の灣自から二つの大灣に分る、一は筑紫灣にして一は嶋原灣なり、灣内には無数の小港灣あり。

天草洋の北方に斗出せるは即ち彼杵半嶋なり、其の北に斗出せるは松浦半嶋にして大村灣即ち鯛の浦は、彼杵半嶋の北沿岸に依りて形成せらる、大村灣の入口にあるは佐世保軍港にして、長崎港は彼杵半嶋の南部に在り。

松嶋半嶋に依りて形成さるゝ大灣は、伊萬里灣にして其れより北東方日本海に面する沿岸には、唐津灣、福岡灣、若松港等の良港灣あり。

伊萬里灣より若松港に至るの洋上を、玄海洋と稱し、若松港より馬關海峡の北部に至る洋上を響灘と稱す。

今九州嶋の各沿岸に在る、著名なる港灣を擧れば左の如し。
太平洋方面に在るもの
白杵港、佐伯港、細島港、内浦灣。

日本海方面に在るもの

福岡灣。唐津港。若松港。

支那海方面に在るもの

鹿兒嶋灣。大浦灣。八代灣。天草灣。千々岩灣。島原灣。有明海。長崎港。
佐世保港。大村灣。伊萬里灣。

◎ 練習問題

- 九州嶋南岸に在る岬及び半嶋を問ふ
- 九州島の日本海に面する海岸に在る良港灣を問ふ
- 天草灘に在る良灣を問ふ
- 九州島の各沿岸に在る著名なる半嶋を記せ
- 玄海洋及び響灘は何れの海上に在るや

◎ 北海道島海岸の状態

○ 我國の地勢

オコック海
北海ト又モ
云フ

納沙布岬
野付岬
岸ノ間ノ沿
大自カノテ
爲ス其ノテ
入ルモ其ノ
ヲ根室海
ト稱ス

白神岬
近ニ於テ
暴行ヲ爲
セシ露艦
トシテ

ハ浦邊
ニシテ
シヤク
ロモボ
リ、ニ
リ、ニ
三ツク
ナ

北海道本島の海岸は北方はオコック海に向ひ、東南方は太平洋に面し、西方は日本海に面す。

北方オコック海に面する沿岸は、海岸の屈曲出入極めて少なく、殆んど一直線を爲す。

北方の西端に突出せるは宗谷岬にして、最東端に北方へ細く極めて長く斗出せるは、即ち知床岬なり、其西方に在る港灣を網走港とす。

南部太平洋に面する海岸は、稍や屈折多し、其東方に斗出せるは納沙布岬にして、其西方に在るは野付岬にて、野付岬と納沙布岬の間に在るは即ち根室灣なり。

納沙布岬より渡島半島に至る迄の沿岸には其中央即ち日高の南端に襟裳岬あり襟裳岬と納沙布岬との間に在る一灣を厚岸灣と云ふ、又た襟裳岬の西に在る一灣を噴火灣と云ふ、

惠山岬は渡島半島の東部に斗出し、其北方に斗出せるは即ち膽振の繪鞆岬にして、繪鞆岬の内には室蘭港なり、惠山岬の西方に斗出せるは白神岬にして

白神岬の内には函館灣なり、白神岬は日露戦争の初に於て、露艦の暴行を敢てせし所なり。

西方日本海に面する部は、其南方に辨慶岬を出し、其北に西北に向つて斗出せるは即ち神威岬なり、小樽灣は神威岬に依りて形成せらる、神威岬より北端の宗谷岬に至るまでの間には、著しき港灣更に無し。

北海道本島の沿岸に於ける著しき港灣は、其南海岸太平洋に面する部に存す、即ち左の如し

根室灣。厚岸灣。噴火灣。膽振灣。函館港。

日本海方面に在るものは

小樽港。

北海方面に在るものは

網走港のみ

○ 我國の地勢

◎練習問題

- 北海道本島の各部沿岸は何海と何海に臨むや
- 北海に面する沿岸の状態を問ふ
- 北海道本島の最北端に在る岬の名を問ふ
- 太平洋方面の海岸に在る港灣を詳記せよ
- 日本海方面に在る良港を問ふ
- 惠山岬及び白神崎は何處に在るや
- 室蘭港の所在を問ふ
- 厚岸港の所在を問ふ

◎臺灣嶋海岸の状態

臺灣島の沿岸は我が國第一の屈折出入少なき海岸とす、其南部に一灣あり南灣

と云ふ、南灣に沿ふて長く南方に突出せるは、即ち南岬にして我國の最南端とす。

東部沿岸は實に一直線をなして、港灣の見るべき者更になし、唯だ北方に東方に向つて突出せる土地あり、三貂角是なり、其南に二個の小港あり、即ち一は蘇澳港にして、一は花蓮港なり、然りと雖とも良港にあらず。

西部臺灣海峡に面する海岸に三個の良港あり、其南に在るものを打狗と云ひ、其北に在るものを淡水と云ふ、其中間に安平港あり。

北部は本島中の最も繁華なる處にして、本島第一の良港と稱する基隆港あり、其北端に突出せるは、即ち有名なる富基が崎とす

臺灣嶋にある著名なる港灣は左の如し

基隆港。打狗港。安平港。淡水港。南灣。

◎練習問題

○我國の地勢

打狗港 淡水港 基隆港 安平港 南灣 北端 亦在 港ナリ

- 臺灣南部海岸の状態を問ふ
- 臺灣第一の良港は何港にして其位置如何
- 臺灣西部海岸の良港を問ふ
- 臺灣の南北端に在る岬を問ふ

◎海 峽

海峽は海と太平洋の連絡を取る水道のことにて船舶の航通に至大の便益を興ふる天然の大なる河流と見て可なり

我國に在る重なる海峽を擧れば即ち

- 宗谷海峽 樺太北海道本島間の海上
- 千嶋海峽 千嶋列嶋とカムチアツカ間の海上
- 根室海峽 根室沿岸の海上
- 津軽海峽 北海道本嶋渡島と本洲島の陸奥との間の海上

我國ノ太平洋ノ海峽ノ水ガ連絡トシテ太平洋ニ通ルコトナリ

由良海峽 淡路と紀伊の間の海上

鳴戸海峽 淡路と阿波の間の海上

由良海峽 淡路と紀伊の間の海上

明石海峽 淡路と播磨の間の海上

佐田海峽 豊後と伊豫の間の海上

馬關海峽 長門と豊前の間の海上

大隅海峽 大隅の沿岸の海上

對馬海峽 對馬と壹岐の間の海上

壹岐海峽 壹岐と肥前の間の海上

臺灣海峽 臺灣島の西部と支那福建省との間の海上

朝鮮海峽 對馬と朝鮮との間の海上

第三章 氣候

氣候とは空氣の温度の高低、雨、雪、風等の宇宙間に於ける變化の状態にして

氣候ノトハ
寒暖ノ別
化降ノ風
ノ方位等
ノ變シテ
モシタ
ルモノナ

中和トハ
均等ノ平
均ヲ保ツ
テナルコト

海流ノ寒
暖ノ別
流下ハ
ノコトナ

風ノ方向
トハ風ノ
吹ヒテ來
ル方角ノ
コトナリ

即ち氣象のことなり。

氣候は地球表面到る處に従つて相違あり、其相違の生ずる重なる原因は、緯度の高低、陸地の形状、海陸の關係、海流の有様、風の方向等なりとす。我國は亞細亞大陸の東部、太平洋の北部に横はる、細く長さ嶋國にして、極南の臺灣島と、極北の千島列島とでは、其の緯度の高低著しき相違あり、故に南方は炎暑甚くして、北方は寒氣凛烈に、而して中央部は寒暑共に中和にして、寒暖の差甚しからず、然りと雖ども處に依りては、寒暑共に著しき相違を見ることあり、是れ素より緯度の高低に依りて、然るべきも、嘗に緯度の高低に因りて、温度に相違を生ずるのみならず、土地の高低、海流の暖寒、風の方向等、殊に著しき相違を生ずるものなり。其故に同一緯度内に在る土地と雖ども、海濱平野等の低地と、山上の高地とに依りては、自から寒暑の差甚しく、又同一緯度内にて、暖流の流ると流れざるによりて、甲地は嚴寒なるも、乙地は比較的溫暖なる處あり、今我國の氣候

温度ニ比
例ストハ
空氣中ニ
含ム温度
即チ氣温
ガ高クレ
バカクシ
クイト云
フコトナリ

に就て細かに述べん。

空氣温かければ氣候も亦た暖く、空氣冷へれば氣候も亦た寒し、故に寒暑の度は、空氣中に含む温度に比例す、元來空氣は太陽の熱を受けて、温まるものなるを以て、其熱を受ること彌々多ければ、空氣の温度は益々高し、此を氣温と云ふ。

◎ 温度

氣温の高低は、其原因太陽の熱を受けるの多少に在るを以て、赤道に進む、即ち緯度が低くなれば、氣温高く、赤道を離る、即ち緯度が高くなれば、氣温低きは知れ渡りたることなれども、氣温は高に上るに従つて、次第に減少するものとす、故に其緯度は同一なりと云ふも、低き土地と高き土地に於ては、氣温に高低を生ぜざるべからず、彼の箱根山の麓なる小田原地方と、箱根山上とでは、盛夏の頃と雖ども氣温に大なる高低の差あり、又富士山上の如きは、盛夏の頃

通過トハ
暖流ガ流
トナリクニ

對馬海流
ハ日本海
流ノ支流

群島國
ハ島國
トナリクニ
コトナリ

大陸トハ
對國ノ反

と雖ども、尙ほ綿入を用ゆるの必用あり。

又た暖流の通過する沿岸地方は、空氣中に暖流の熱を受くるを以て、氣温一層に高く、寒流の流過する地方は、寒流が空氣中の温を奪ひ去るが故に、氣温一層に低し、我國の日本海に面する北海岸地方の如きは、其緯度の高き割合にかゝはらず、氣候の寒からざるは、九州の西岸に沿ふて、日本海に入りたる暖流、即ち對馬海流が、其沿岸を流過するを以てなり。

又た寒冷の風を受くる地方は、其が爲めに氣温の低まるを以て、寒冷の風を受けざる地方に較ぶれば、寒さの強きは言を俟ずして明かなり。斯の如き理由なるを以て、氣候には緯度のみにあらず、土地の形勢、海陸の關係、海流の有様、及び風の方向等大なる原因となる。

さて我國は、南より北に細く長く延びたる群島國なるを以て、大陸の如く寒暑の差甚だ劇しからず、緯度より云へば、極南は熱帯に入ると雖ども、極北は未だ寒帯に入らず、北海道島と臺灣島を除くの外は、中帯に位するを以て、氣候

同種トハ
ノ物ガ種
ナヘルコト

玉温
ナカ合類
ナキコト

地方ハヤ
度ノ關係
非常ニ寒

温和にして、人類及び動植物の繁殖に最も適す、然れども我國は全國到る處、山脈甚だ多きを以て、地方に依りては、大陸の如く寒暑の差甚だしき處あり、概して云へば我國の温度は、同一緯度内にある他の諸國に比ぶれば、寒さの強き方なりとす。

其は外ならず、太平洋沿岸及び日本海沿岸を流るゝ暖流のあるも、彼の親潮即ち千島海流、及び樺太海流の二大寒流の流過すると、冬季に際して、シベリヤ大陸地方より、寒風を吹き送くるを以てなり。

本洲島の温度 本洲島の太平洋に面する地方は、一帯に温和にして、其の海岸に近よるに従つて、益々暖く、寒暑の差も甚だ少しと雖ども、其中央山岳の在る地方は、大陸の如く暑氣も強ければ、亦た寒氣も強し、本洲島の東北部及び日本海に面する地方は、寒氣強し、是れ一つは寒流の流過すると、「シベリヤ」地方より吹き送る寒風とに因てなり。

北海道の温度 北海道は我國の最北方に位するを以て、寒冷なるも、其中にて

シベリヤ
地方ヨリ
來ル風ハ
頗ル寒キ

東部海岸は、寒流の流過する處なるを以て殊に寒むし、其中央部の山地は、其土地の高さと「シベリヤ」地方の寒風を受けること甚だしきを以て、寒氣別けて甚烈なり、併しながら日本海に面する西部海岸地方は、比較的に稍や暖し、是れ日本海流たる暖流の支流、對馬海流の余派を受くるを以てなり、我國に於て最も寒き地方は、北海道の旭川、及び釧路とす。

九州島の温度 九州島は我國に於ける最も温和なる地方にして、夏時は温度稍や強しと雖ども、冬期は極めて暖く、寒暑の差誠に少なし。

四國島の温度 四國島は九州島に次いでの温和なる地方にして、黒潮即ち暖流の流過する地方、四國の南部沿岸は、別て温暖にして、瀬戸内海に面する北部地方と雖ども、冬期は温暖にして、唯だ夏期に於て南部沿岸に比ぶれば、暑氣の稍や強きを感じるのみ。

臺灣島の温度 臺灣島は我國の最南部に位し、其南端は既に熱帯に入るを以て炎熱強しと雖ども、四面海もて圍まれける島嶼なるに依り、他の大陸の如く甚

暖キトハ
雪ガ積リ
白キコ
トナキコ

風ハ空氣
ノ交替ス
ルモノナ
ルヲ以テ
風吹カバ
涼シサチ
感ズルナ

氷點トハ
零度ト云フ
攝氏トハ
「セルシ
ユス」氏
ノ寒度計
ヲ用テ計
スルニ
テ百度ト
定メタル

だしからず、彼の新高山の山頂には、盛夏の頃と雖ども、尙ほ白雪の皚々たるを見る。

其他琉球を始め西南方に在る諸島は、一般に暖かにして、夏季は太平洋より來る風の爲めに、暑氣を拂はれて凌ぎ能く、冬季と雖ども大陸より來る寒風を受くることなきを以て、極めて温暖なりとす。

以上の如く我國には、寒冷なる地方もあれば、炎熱なる地方もある、併しながら大陸の如く、夏は非常に暑くして、冬は非常に寒いと云ふことは決してない、前にも云ふ如く我國第一の寒冷なる地方、北海道の釧路旭川の如きも、嚴寒の頃と雖ども、氷点以下十度に下りしことなく、又た臺灣の南部熱帯に入れる地方と雖ども、極寒攝氏の二十八度を越ゆることなしと云ふ。

故に我國の温度は極めて中和にして、人類及び動植物の生活に最も、適當なる温度を有する國とす。

◎ 風

○ 氣 候

一定處ト
ハ一トコ
ロノトコ
ト
静止トハ
シットハ
アキレル
コ

流動トハ
ウエグ
ト

地球ノ中
心赤道ヨ
リ南又ハ
北へ行ク
ニ從ッテ
寒クナル
モノナリ

九七

空氣は始終一定處に靜止せるものにあらず、温度の高低に依つて流動す、之を稱して氣流と云ふ、氣流は即ち風なり、言葉替へて云へば、空氣の流動する有様を風と云ふ。

水は高さより低に流るれども、空氣は其反對にして、温度の低き處に在る空氣は、必ず温度の高き處に、向つて流る、故に風は温度の變化に因て生ず、左れば温度の變化急なれば、風も彌々強く、又た温度の變化する方向に因りて、風の起る方向を異にするものなり。

其故に空氣は、常に温度の高き處に向つて流れんとする性質を備へけるを以て地球の南北兩極の寒冷なる處より、其中央なる赤道に向つて、互ひに進まんとしつゝあるは理の當然なりと雖ども、廣き地球の表面は、凡て一樣ならず、或は陸地あり、或は山岳あり、或は嶋嶼あり、或は海洋ありて、兩極より中央に向つて進まんとする空氣の流動を遮り妨ぐるものなり。

因て風に季候風、海陸風、暴風、或は貿易風等の種類あり、此等の種類は、必

竟山脈の關係、陸地と海洋との關係、又た季候の變化等に因て生ずるなり。

季候風 とは夏季に於て、海洋より大陸に向つて吹く風と、冬季に大陸より、海洋に向つて吹く風のことを云ふ、是れ夏季と冬季とに依て、吹く風の方向が全く異なるを以て、即ち季候に因て空氣の流動が其方向を異にするより、左てこそ季候風と云ふなり。

何故に夏期は海洋より、大陸に向つて風が来るか、又冬期は其反對なるかと云ふに、是れ他なし、陸地は海洋に比ぶれば寒熱の差多し、即ち陸地は熱を受けて、其れに感ずること誠に速かにして、其熱を失ふことも又た早し、海洋は熱を感ずることも遅ければ、又た失ふことも遅し、假令は鐵鍋と土鍋との如し、其れ鐵鍋は熱を感ずること早きも、直ちに又た熱を失ふ、土鍋は熱を感ずること遅きも、其の一たび之を受くるや、容易に失はず、海洋は即ち土鍋にして、陸地は尙ほ鐵鍋の如し。

故に夏期は、海洋より陸地の熱を感ずること速かなるを以て、其温度は海洋よ

夏季ト
ト海洋
ト陸地
トハ
トハ
トハ
トハ

○氣 候

作用ハ
フキト云

貿易風ハ
力強クシ
吹ク風ノ
此ノ風ノ
ニ當リナ
ル船何ナ
チ轉覆ス

水蒸氣ト
即チ湯
氣ノコト

る風が、其附近に於て地球の自轉の作用に因りて、其方向を變せられ、北半球にありては、東北の方向に吹き、南半球に在りては東南の方向に吹く、即ち北半球と南半球とにて、其風の方向が相反す。

此の貿易風は四季休止することなく、其風力には多少の強弱を生ずることあるも、絶へず吹きすさみつゝあり、熱帯地方の海洋を航海する船舶の、時に不測の災害に遇ふことあるは、全く此の貿易風の餘波を被むるものにして、貿易風は航海者に取りて、非常に危険なるものとす。

我國は島國なるを以て、季候風の吹くこと著し、而して其最も多き風は、北西風及び北風にして、是に次ぐものは東南風及び南風とす。

◎ 雨

太陽の熱は常に地球表面の水分を水蒸氣とし蒸發せしむ、故に空氣中には必ず水蒸氣の含めるものなり。

濃縮トハ
カクマリ
子ニテ水
ノ濃縮セ
ルモノハ
即チ水ナ

濕氣ヲ含
メル風ガ
山岳ニ出
合ヒテ寒
冷ナルヲ
爲メニ濃
縮セラル
雨ト成リ
テ降ル地
方ニテ大
スノ降ラ

空氣中の水蒸氣は、寒冷の氣に逢ふて濃縮す、其濃縮したる物は水滴と成り、地球の引力に吸引せられて地上に降る、之を稱して雨と云ふ、故に雨は空氣中の水蒸氣が冷へて水滴となりしものなり。

我國は嶋國にして、日本海流對馬海流の暖流各沿岸に流れ、太平洋中より濕氣を含みたる風、常に内地に向つて吹來たるを、各島中には悉く大なる山脈相重なれるを以て、一般に降雨の量多き國とす。

然れども降雨の量は全國一樣ならず、地方に依りて多少あり、又季候に依りても、將た風の方向に依りても自から其量に多少の差あり。濕氣を含める風が山岳に出合ひたる時は、忽ち濃縮されて、其地方には多量の雨を降らす、此に反して濕氣を含める風に出合はざる山岳の側面の地方は、一般に天氣晴朗なり、是れ濕氣を含める風が、山岳の一方面に遮られて、其處にて雨を降らすを以てなり。

因て我國の太平洋に面する西南方の諸嶋には、降雨の量最も多し、即ち本洲の

瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸
瀬戸内海沿岸

長雨
長雨
長雨
長雨
長雨
長雨
長雨
長雨
長雨
長雨

南部紀伊半島四國島の南部九州嶮の南西部、さては北陸地方の海岸、及び飛騨、美濃、地方の高原など、雨量の殊に多き地方なり。
本洲島の中央高地の北部、瀬戸内海沿岸の各地方、及び北海道本嶮の北部地方は、雨量の最も少なき處とす、是れ一般に海洋より來たる濕風を、山脈に因りて遮ぎられるを以てなり、我國瀬戸沿岸地方に、製鹽の業盛なるは蓋し謂なきにあらざるなり。
又九季候に因りて雨量の相違あり、其は夏は太平洋より吹き來る東南の季候風あるを以て、太平洋上より多量の濕氣を送る、故に太平洋に面する地方に降雨多く。
冬は亞細亞大陸より、日本海を経て吹き來る西北風あるを以て、日本海上より濕氣を送る、故に日本海に面する沿岸地方に降雨多し、彼の北陸一帯の地方を雪國として、雪を一つの名物となせるは、蓋し冬期季候風の濕氣を多量に送り來るに因るなり

熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方
熱帯地方

又た六月には梅雨と稱して霖雨あり、是れ季候風の交代に際し、熱帯地方印度洋上より、殊に濕氣を含める風を、我國に向つて送り來たるに因る。
尙ほ春秋の二季にも、多量の降雨あり、彼の九月頃に暴風に伴ふて來る大雨の如きは是なり。
雪とは雨が一層寒冷の氣に出合ひて凝結せるものにて、雪が一層寒冷の氣に出合ひなば、即ち霰と成る、因て南部地方には雪を見ることなきも、北部地方は雨が雪と成つて降るなり、加賀能登さては北越地方の如きは、我國に於ける降雪の最も多き處にて、其海岸の平地と雖も、積雪五六尺より、甚しきは一丈余に及ぶ處あり。

◎練習問題

○氣象とは如何なることを云ふや
○我國氣候の一般を問ふ

- 氣候に相違あるは如何なる原因なるか
- 氣温とは如何なることを云ふや
- 我國の日本海方面の地方は緯度の割合に暖かなりと云ふ其理由如何
- 氣候温和なれば人類及び動植物の繁殖多しと云ふ其の理由を問ふ
- 本洲島の氣候の概況を記せ
- 本洲島の東部及び北部は比較的寒氣強しと云ふ其理由如何
- 北海道本嶋の氣候の概略を記せ
- 北海道本島の中央部は殊に寒しと云ふ其理由如何
- 日本海の西部海岸地方は比較的暖しと云ふ其理由如何
- 我國に於て最も寒き處は何處なるか
- 九州嶋の氣候の概略を記せ
- 四國島の氣候の概略を記せ
- 四國嶋の北部と雖も冬季誠に温暖なりと云ふ其理由を問ふ

- 臺灣嶋の氣候を問ふ
- 風とは如何なる現象なるか
- 風の種類を問ふ
- 季候風とは如何なる風を云ふか
- 我國の季候風の種類及び其性質を問ふ
- 海陸風とは如何なる風なるか
- 貿易風とは如何なる風なるか
- 雨とは如何なるものを云ふか
- 我國には降雨の量多しと云ふ其理由如何
- 我國にて降雨の最も多き地方并に其理由
- 季候に因りて雨量の相違あるは如何
- 梅雨は如何なる關係に依て來るか
- 我國の南部に雪を見ざる其原因如何

第三編 日本地方地理

第一章 畿内

中心トハ
マシナカ
ノコト
基點トハ
ドグイノ
ト

畿内の位置 畿内は本洲嶋の中央より、稍や西南に位すと雖も、先づ全國の中心と成る、故に昔は畿内を基點として、全國に通ずる各道を出したり、殊に皇祖 神武天皇日向ひむかに起り、中原なかつらを平定して都を大和の橿原かしはらに奠め給ひしより維新の初に至るまで歴代天皇の都を置かれし地方なれば、實に歴史上には著るしき關係を有する處なり。

畿内の成立 畿内は山城、大和、河内、和泉、攝津の五ヶ國より成立し、此に京都、大阪の二府、奈良、兵庫の二縣を置きて、行政司法教育其他萬般の政事を管轄する。

畿内の地勢 畿内は東北南の三面は山岳相重りて、山又た山、殆んど平原の見るべきもの無きも、其中央は平原相續き、其れに大和川及び淀川よど流通して其平

原を養ふ、所謂畿内平原にて、灌漑の便最も宜しければ、地味殊に肥々、農産物の發育分けて良好なり、而して西南方は山なく畿内平原次第に擴がりて大阪灣に終る。

畿内の氣候 畿内は山地と海濱とに因りては、寒暑に自から其差ありと雖も、一般に暑氣も劇しければ、寒氣も強き地方なりとす。

畿内の物産 物産は農産物、工藝品を第一とし、酒類此に次ぐ、農産物の重なる物は、米、麥、菜種、實綿等にして工藝品の重なる物は、織物、綿絲、友禪其他實用的日用品の工作物等なり、酒類の製造は畿内を以て全國第一とす、製茶も亦た畿内の重なる物産なり。

◎京都府

京都府廳 は山城國京都市に置かれ、畿内の北方に位する、山城一ヶ國と、山陰道の丹後一ヶ國と及び丹波の五郡を管轄す。

畿内ノ地
勢ハ極メ
ニ海ノ岸
ニシテ、
少シカニ
大和川及
淀川ノ水
ガ潤ミテ
農産物ノ
發育分ケ
テ良好ナ
リ、而シ
テ西南方
ハ山ナク
畿内平原
次第ニ擴
ガリテ大
阪灣ニ終
ル。

工務品ト
ハ種々ノ
製造物ヲ
云フ
重積トハ
重リ合ツ
テアルト
云フ
フ井ミ

京都府の地勢 京都府は淀川の上流地方と、由良川の通過せる地方は平坦にして、田圃開け農産の業に適すと雖も、其他は概ね山地にして、丹波には大江御岳等の大山相疊み、又山城の北方には、愛宕、高雄、比叡、嵐等の諸山互ひに重積して、殆んど平地を見る能はず、然れども山城の南西方は、一般に平野にして、即ち畿内平原の北部を構成す。

京都府管内の鐵道 は東海道鐵道、關西鐵道、奈良鐵道、京都鐵道及び阪鶴鐵道の五鐵道相通す。

東海道鐵道は、東滋賀縣馬場より來りて、大谷、山科、京都七條を過ぎて、西山崎に至り大阪府に入る。

關西鐵道は、三重縣の上野より來りて、京都府の笠置、加茂を過ぎ、木津を経て大阪府に走る。

奈良鐵道は京都の七條より起りて、南に走り伏見、宇治、木津等を経て、奈良縣に入る。

京都鐵道は、京都市より起りて嵯峨に至り、嵐山下を迂回して、丹波の龜岡より園部に至る。

阪鶴鐵道は西大阪市より起りて、兵庫縣の篠山柏原等を過ぎ、福知山に至り、其れより由良川に沿ふて、丹後の舞鶴に達し、尙ほ進んで舞鶴軍港に至りて止む。

◎京都市

京都市は山城の殆んど中央にして、畿内平原の最北部に位し、昔は平安城と稱して、桓武天皇以來一千七十有余年間の帝都たり、本市の東北西の三方は山を以て圍まれ、南方は畿内平原に通ず、京都府廳の所在地にて、人口四十万を算し、我國第三の大都會なり。

市の街形は甚だ正しくして宛然碁盤の目の如く、東西南北の區劃整然たり、加茂川は市の東方を流れ、水極めて清く眺望亦宜し、故に市民の此川に遊びて清涼

京都市ハ
天皇陛下
マシマセ
シ成ナリ
街形トハ
町ナミ
コト

清涼ヲ
ストハ
ミテハ
清快ニ
ルコト
ス

宏大トハ
コト

意匠トハ
物ニ工
ヲツケ
ルコト

湖水トハ
湖引キ
ナリト
ルコト

屯營トハ
兵營ノ
トナリ

絶佳トハ
極メテ
キコト

笠置山ノ
山上ニ
笠置寺
アリテ
風致亦
ナリ

を擁する者多く、殊に夏期明月の夜などは、市民四方より集りて雑沓を極むと云ふ。

御所は市の北方二條に在りて、結構壯麗を極め、仙洞御所亦た宏大なり、京都市は前にも云ふ如く、桓武天皇以來一千七十有余年間の帝都たりしを以て、神社佛閣の見るべき物殊に多く、各所舊蹟市の内外に点々羅列して詣する人頗る多し。

八阪神社、三十三間堂、金閣寺、北野天満宮等世に其名高し。

學藝には京都帝國大學を始として、第三高等學校、美術學校、京都帝國博物館等あり、京都市は往昔より織物を以て其名高く、従つて市民は美術工藝に巧みにして、諸種の意匠心に富む、彼の西陣織の如き其名全世界に轟く、左れば織物會社の數も多くして、是等の會社は近江の琵琶湖より來る、即ち疏水に依りて無盡とも云ふべき水力を利用し、以て電氣を發さしめて諸種の器械を運轉す。電氣鐵道は市街を北方に貫通せるものと、伏見町に至るものとあり。

伏見町は市の南部に在りて、第四師團の三十八聯隊及び工兵隊の屯營あり、此地は京都市よりは鐵道及び電車の便あり、又前に淀川の流あるを以て、淀川に依りて大阪市と汽船の交通あり、伏見町の西方數里に有名なる男山八幡宮あり、宇治町は宇治川に沿へる名邑にて、其附近に茶園多く、宇治茶の名天下に高し、又有名なる平等院、鳳凰堂等は宇治町に在り。

笠置は歴史に於て其名高き、笠置山の在る所にして、其附近には名所舊蹟の尋ねべきもの多く、笠置山下を流るゝ木津川は、水清く兩岸の風景絶佳なるを以て、笠置山の舊蹟を尋ね、此流に棹す者四季絶へすと云ふ。

嵯峨は京都市を距る里余の北に在る名所にして、櫻を以て其名高く嵐山も亦た櫻の名所なり、高雄は紅葉を以て其名天下に響く。

龜岡、園部は共に丹波の名邑にして、其地山間に在りと雖ども、商業大に振へり。

福知山も丹波の名邑にして、福知川の畔にあり、福知川は由良川の上流にして、

舞鶴ニハ
海兵團ア
リ要港ア
兵アリ

港内ニハ
砲臺アリ
クアノ設
ニ北ノ買
要領トス

機業家ト
ハ機ヤノ
コトナリ

友禪染ト
ハ縮緬ニ
色々ナ形
ヲ巧ミニ
染メヌキ
ナリ

福知山には第十師團の歩兵第二十聯隊の屯營あり。

舞鶴は由良灣の南隅に在る良港にして、港内水深く大艦巨船の碇泊に適す、即ち舞鶴軍港の所在地にして、第四海軍鎮守府此に在りて、日本海の沿岸を警戒す。

由良灣の西南隅に在る開港場を宮津と爲す。

日本三景の一たる天橋立は由良灣内に在りて、其風景の絶佳なる普く人の知る所なり。

天橋立の西北に名邑あり、峯山と云ふ峯山は有名なる、丹後縮緬の産出地にして其附近機業家多し。

京都府の物産 西陣織を始として、清水焼、粟田焼、扇子、漆器、紅、白粉、友禪染、縫箔、製茶、縮緬等其の重なる物なり。

◎大阪府

大阪府廳 は大阪市江子嶋（のこし）に置かれ、畿内の西南方に位する、和泉、河内の二ヶ國と、攝津の東部に在る四郡とを管轄す。

大阪府の地勢 大阪府は東南北の三方、京都府、奈良縣、和歌山縣の境に接する部は、山岳相連ると雖ども、其他一帶の地は概ね平坦にして、淀川及び大和川の灌漑を蒙り、地味甚だ肥へたるを以て、米、菜種、實綿等の産出殊に多し。

大阪府の東南に聳ゆる高山は、即ち金剛山にして、有名なる千劔（ちんげん）の城址あり。大阪府管内の鐵道 鐵道は、大阪市を中点として、東西南北に通じ、其數最も多く、線路の交通する状態然蜘蛛の巣の如し。

官設東海道鐵道は京都府より來り、茨木、吹田を経て大阪市の梅田に入り、其より西に走り、神崎に至つて兵庫縣に入る。

關西鐵道は、大和の王寺（わうじ）より河内の柏原（かしはら）に來り、此に於て富田林へ通ずる線路と合し、其より八尾平野を経て、天王寺に來り、而して大阪市の湊町に終る、又天王寺より一線を出して、和泉の堺に至り、更に又天王寺より一線を出して

千劔ノ城址トシテ
ナリ

舞鶴ニハ
海兵團ア
リ要塞砲
兵アリ

港内ニハ
砲臺アリ
ケアリ買
ニ北海ノ
要領トス

機業家ト
ハ機ナリ
コトナリ

友禪染ト
ハ縮緬ニ
色々ナ形
ヲ巧ミキ
染メヌキ
ナリ

福知山には第十師團の歩兵第二十聯隊の屯營あり。

舞鶴は由良灣の南隅に在る良港にして、港内水深く大艦巨船の碇泊に適す、即ち舞鶴軍港の所在地にして、第四海軍鎮守府此に在りて、日本海の沿岸を警戒す。

由良灣の西南隅に在る開港場を宮津と爲す。

日本三景の一たる天橋立は由良灣内に在りて、其風景の絶佳なる普く人の知る所なり。

天橋立の西北に名邑あり、峯山と云ふ峯山は有名なる、丹後縮緬の産出地にして其附近機業家多し。

京都府の物産 西陣織を始として、清水焼、粟田焼、扇子、漆器、紅、白粉、友禪染、縮緬、製茶、縮緬等其の重なる物なり。

◎大阪府

大阪府廳 是大阪市江子嶋（けいこじま）に置かれ、畿内の西南方に位する、和泉、河内の二ヶ國と、攝津の東部に在る四郡とを管轄す。

大阪府の地勢 大阪府は東南北の三方、京都府、奈良縣、和歌山縣の境に接する部は、山岳相連ると雖ども、其他一帶の地は概ね平坦にして、淀川及び大和川の灌漑を蒙り、地味甚だ肥へたるを以て、米、菜種、實綿等の産出殊に多し。

大阪府の東南に聳ゆる高山は、即ち金剛山（こんがうざん）にして、有名なる千劔（せんげん）の城址あり。大阪府管内の鐵道 鐵道は、大阪市を中点として、東西南北に通じ、其數最も多く、線路の交通する状態蜘蛛の巣の如し。

官設東海道鐵道は京都府より來り、茨木（いばらき）、吹田（すいた）を経て大阪市の梅田に入り、其より西に走り、神崎に至つて兵庫縣に入る。

關西鐵道は、大和の王寺（わうじ）より河内の柏原（かしわはら）に來り、此に於て富田林（とみだやし）へ通ずる線路と合し、其より八尾平野（やせひらの）を経て、天王寺（てんわうじ）に來り、而して大阪市の湊町に終る、又天王寺より一線を出して、和泉の堺に至り、更に又天王寺より一線を出して

千劔ノ城址トハ
千劔ノ城址ト
ナリ

梅田に至る、市民此の線路を稱して、城東線と云ふ、尙ほ大阪市の網島より一線を出し、河内の四條畷を経て、加茂に至り、奈良市に達する線路あり。西成鐵道は大阪市の梅田に起りて、安治川口を経て天保山に終る。阪鶴鐵道は大阪市の梅田に起りて、兵庫縣の神崎を経て、同じく伊丹を過ぎて池田に達し、其れより三田、篠山を過ぎて舞鶴に至る。南海鐵道は大阪市の難波に起り、住吉、堺、濱寺、岸和田等を経て、和歌山縣に入る。

高野鐵道は、大阪市の汐見橋に起りて、住吉、堺を過ぎ長野に達す。此他に阪神電氣鐵道ありて大阪神戸間を往復す。

◎大阪市

大阪市は攝津の東南部に在り、淀川の河口に在り、我國第二の大都會にして、人口九十萬を算す、市内は河川縱横に流通して、水運の便極めて宜しく、市外は

淀川ノ河口ハ大阪府ニ在リ

水運トハ船ニテトナリ

鐵道亦縱横に交通して、百貨の集散殊に妙なり。

市民は皆實業を業とす、故に其商業の盛なること、全國第一にして我國商業の中心は大阪市と爲す。

大阪築港は市の西南端にして、大阪灣の西北隅に在り、工事未だ終らずと雖も、大艦巨船の出入自在にして、輸出輸入の貨物常に埠頭に堆積して、其殷盛名狀すべからず、將來大阪市の富をして益々盛ならしむるものは、其れ此の築港か、此に三百余間に亘る棧橋あり、橋上には軌道を敷きて貨物の運搬に便す、其結構の宏大なる蓋し我國第一の棧橋なりとす、築港の西方に隣れるは即ち天保山なり。

安治川口は淀川の水岐れて安治川と成り、大阪灣に流入する所にして船舶の出入常に絶わす、煙筒帆橋恰も林の如く、一たび安治川口に立つて此状況を見れば、以て大阪市の商業が全國に冠たる所以を知るに易すからんか。

市内を東西南北の四區に分つ、東區は巨商大賈軒を並べ、中ノ嶋公園、大阪城、

冠第一ノ埠頭ハ天保山ニ在リ

巨商大賈トハ市中ノ巨商トナリ

第四師團司令部、砲兵工廠、衛戍病院、歩兵第三十七聯隊、同第八聯隊、株式
取引所等皆東區に在り。

西區は紡績、肥料等の製造會社工業會社の輻湊せる處にして、大阪府廳大阪市
役所は、共に江ノ子橋に在り、魚市場を以て有名なる、雜駭場も亦た西區に在
り。

南區は最も遊覽の場所に富める土地にして、心齋橋筋、道頓堀の如きは、晝夜
の別なく車馬絡繹行人肩摩、實に繁華を極む、有名なる高津、生國魂の諸大社
四天王寺、さては茶臼山、真田山等の名所舊蹟亦た南區に在り。

北區は西區に次ひて諸製造會社、諸工場多く、天滿天神、控訴院、地方裁判所、
造幣局等あり、彼の有名なる堂島の米穀取引所も亦北區に在り。

堺市は大阪市の南、和泉の北部にして、茅渚の海邊に在り、大和川は市の北部
を流れて大阪灣に注ぐ。

堺市は維新の當時、貿易港として其の名高く、従つて繁昌を極めたるも、今は

砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠
砲兵工廠

鹽濱トハ
深山ニ集
ツアルコ

造幣局ト
ハ金銀銅
ハ金銀銅
ハ金銀銅
ハ金銀銅
ハ金銀銅
ハ金銀銅
ハ金銀銅
ハ金銀銅
ハ金銀銅

港内水淺くして大船の出入に不便なるを以て、昔日の繁昌を見る能はずと雖ど
も、商業亦た大に盛なり。

堺公園は大濱と稱し、即ち茅渚の海邊の海濱なり、遙かに淡路島さては攝津の
武庫、摩耶の諸山を望み、其風景の絶佳なる、蓋し喩ふるに辞なし、且つ港内
水淺く清ければ、夏期海水浴に適するを以て、人の來り遊ぶもの頗る多し。

住吉は大阪市の中間にして、住吉大社の有る處、境内幽邃閑雅にして前
に大公園あり。

富田林は河内の名邑にして、葡萄の産地を以て名あり。

四條段は北河内に在る古戰場にして、楠正行公忠死の場處なり、山麓に四條段
神社ありて正行公の神靈を祭る。

彼の歴史に有名なる櫻井の驛は、大阪府の東北に在りて、汽車の便あり、
京都の高雄と相並んで天下に名高き紅葉の名所箕面は、大阪市を距る五里の北
方箕面山中に在り。

池田町は大阪府の北方に在る名邑にして、北攝津の貨物は概ね池田町に於て集散すと云ふ。

大阪府の物産 は特に記す可き物なきも、大阪市にて紡績糸、肥料、モスリン、硝子、摺附木等を製して、盛んに海外へ輸出す、河内木綿、池田炭、池田酒、葡萄、道明寺等又た名高く、其他米、綿、油、綿糸等あり。

◎奈良縣

奈良縣廳 は大和國奈良市に置かれて、大和全國を管轄す。

奈良縣の地勢 奈良縣は北部は大和川を狭はさむで一般に平地なれども南部は大台原山、吉野山等の諸山脈相連るを以て、平地を見る能はず、而して西北方は和泉、河内の平原に續りて、共に畿内平原を構成す。

奈良縣の鐵道 奈良縣には關西鐵道、奈良鐵道、南和鐵道、紀和鐵道の五鐵道互ひに相通す。

奈良縣ノ
南部山脈
ハ即チ紀
伊山系ナ
リトス

關西鐵道は山城の加茂より來つて、奈良市を過ぎ、郡山を経て王寺に至り、此に於て櫻井より畝火、高田を経て來る鐵道に會して大阪府に入る、奈良鐵道は山城の木津より來つて、奈良市に達し、其より更に南に走つて櫻井驛に至る。南和鐵道は高田より起つて五條に終る、五條より起つて和歌山縣に入る鐵道は即ち紀和鐵道なり。

◎奈良市

奈良市は奈良縣廳の所在地にして、市内は甚だ廣からずと雖ども、往古の帝都にして南都の稱あり。

普く人の知る如く奈良は、古代の建築物、製作品等の極めて多く藏めらるゝ土地なるを以て、最も美術品に富みたる處なり、故に奈良を稱して我國美術の淵源地と云ふ。

因て奈良市附近には、美術の見る可き物、學ぶべき物、尋ねべき物、極めて多

古代ノ
建築物トハ
奈良市ニ
アル寺院
ノ建築ノ
コトナク
フ

製作品ト
ハ佛像其
他ノ彫刻
ナリ

瀧源トハ
美術ノ根
原ト云フ
井ミ

山陵トハ
天子ノオ
タマヤノ
コトナリ

宮趾トハ
宮殿ヲ置
カレタル
其ノ跡ノ
コトナリ

靈地トハ
尊キ土地
ト云フコ

伐出シタ
ル木材ハ
凡テ筏ニ
組ミテ十
津川ニ流

く、且つ名所舊蹟の賞すべき物枚舉に違あらず。

奈良市に於て最も名高きは、東大寺の大佛、春日神社、聖徳太子の建立し給ひたる法隆寺等にして、其他神社佛閣の詣つべく訪ふ可きもの限りなし。

畝火の附近は、歴代の山陵宮趾頗る多し、是れ 皇祖 神武天皇の始めて都を奠め給ひたる土地なるを以て、神聖にして犯すべからざる靈地なりとす。

吉野山は我國第一の櫻の名所にして、吉野川の南岸に位す、殊に吉野は舊蹟多ければ櫻花と共に其名高し。

多武峯は櫻井驛の南方にして、談山神社の在る處なり、談山神社は藤原鎌足公を祀る。

月が瀨は吉野山の櫻と相並んで、我國第一梅花の名所にして、本縣の東北方伊賀の境を流るゝ名張川に沿ふて在り。

吉野山より南方は、深山高岳相重りて、其の數十二を算す、此の山々よりは多くの良材を出す、此の山間を流るゝ川を十津川と云ふ、伐出したる良材は十津

川の流に浮べられて諸處に運搬さる。

奈良縣の物産 物産は木材、墨、漆器、紙、葛、人形、奈良晒等其の重なるものとす。

◎兵庫縣

兵庫縣廳 は攝津の西端なる神戸市に在りて、大阪府の北西に連なる攝津の三郡と、丹波の二郡と播磨但馬淡路の三國を管轄す。

兵庫縣の地勢 兵庫縣の中央には、東より西に亘れる一條の大山脈ありて、宛然屏風を並べたるが如し、是れ即ち中國山脈なり、此の本縣の中央を東西に貫通せる大山脈の左右に當れる土地は、一般に山岳多けれども、其の攝津に屬する土地、及び播磨但馬の南部は平原にして、播磨地方には加古川、朝來川等流道して灌漑の便殊に宜しきを以て、其地方は地味大に肥へ農産物の發育頗る盛し。

シ下流ノ
地へ送ル
ナリハ奈
人形ハ奈
良市ニテ
製スル奈
良人形ナ
コトナリ

飾磨ハ播
州ノ良港

我國第一
ノ貿易港
ハ横濱港
ナリ

兵庫縣の鐵道 官設東海道鐵道は、大阪より神崎に來り、西の宮住吉を経て神戸に達す。

山陽鐵道は神戸より起つて播磨に入り、舞子姫路等を経て岡山縣に入る、姫路より岐れる一線は、即ち播磨鐵道にして、其の起點は姫路の南なる飾磨なり、飾磨より起つて姫路に入り、其より但馬に進んで生野を経て新井に達す。阪鶴鐵道は神崎より伊丹を経て、寶塚、三田、篠山、柏原を過ぎて、京都府の福知山に至り、其より舞鶴軍港に達す。

◎神戸市

神戸市は兵庫縣廳の所在地にして、我國第二の貿易港なり、位置は攝津の西南端に在りて、人口二十八萬を算す。

市内は實業家を以て充され、商業盛にして土地大に富み、其繁華なる横濱を凌ぐと云ふ、各國領事館は市内に在りて、外國商館軒を並ぶ。

輸出トハ
外國ヘ送
トナリ

格トハ
概キツ
クコト
云フ

御影石ト
ハ六甲山
ヨリ出ツ
御影ニ於
テ船ヲ積
ミ諸方ヘ
送ルナリ
テ此名ア
石ハ花
崗石ナリ

港内は水極めて深きを以て、巨艦大船の出入するもの常に絶えず、本港より輸出さるゝ重なる物は、米、銅、樟腦、茶、摺附木等にして、其輸出額全國第一となす。

市内には別に見るべき名所舊蹟なしと雖ども、湊川神社は楠正成公を祀れる大社にして、神殿宏大境内又た廣く、參詣する者四季晝夜の別なく常に充滿せりと云ふ。

布引の瀧は市の北方十數丁の處に在りて、數丈の斷崖より落る瀧は、其狀恰も白布を引き延したるが如き觀あるより、布引の瀧の名あり、晚春の頃より盛夏にかけて、遊人絡繹として絶えず。

神戸の東に在る名邑を御影と云ふ、御影石を産するを以て其名高し。御影より東方二里に亘る一帯の海岸地方を稱して灘と云ふ、灘は全國第一の酒造地にして、即ち灘銘酒の本場なり。

灘の東に在る名邑を西宮と云ふ、灘に次ての醸造地にして、市街の西部に在る

戎神社は其名全國に高し。

西宮の北方に在る名邑を伊丹と云ふ、亦た酒の醸造地にして、伊丹の北方六甲山麓、武庫川の畔に寶塚温泉あり。

三田篠山柏原は共に丹波の名邑にして、篠山柏原には中學校あり。

有馬温泉は其名天下に高き靈泉にして、阪鶴鐵道線路三田驛を距る二里の西、武庫山の北麓に在りて、四季浴客充満すと云ふ。

神戸市の稍西部を流るゝ川を淡川と云ふ、淡川の西岸一帯の地を兵庫と稱す、元は淡川を以て兵庫と神戸を分れたれども、今は其區別なく、兵庫と神戸を合して神戸市を爲す。

兵庫の西に在る名邑を須磨と稱す、須磨は歴史に有名なる所にして、平家の立て籠りたる一ノ谷は其附近に在り、須磨の海岸を須磨ノ浦と稱して、須磨ノ浦より西舞子明石に至る海岸は、一帯に青松を以て滿され、白砂は壘を敷きたらむが如く、波間に見ゆる一帯の地は淡路嶋にして、遙かに見ゆる山々は紀伊、阿

有馬温泉
ハ硫黄湯
ニシテ其
温度九十
度内外ア

波、和泉の山脈にて、其風光の絶佳なる、蓋し我國第一の海濱なりとす、山陽鐵道は東兵庫より來りて此の風光妙美なる白砂青松の間を西に走りて姫路に入る。

姫路市は第十師團司令部の所在地にして、市川に沿ゆる平地なり、白鷺城は其名天下に高く、城内には第十師團司令部を置く、本市の南方の海岸は飾磨の津にして、本市の北方に聳ゆる山は有名なる響瀉山なり、又た東方には石の寶殿手枕の松、高砂の松等の名所舊跡あり。

醤油を以て名を博せる龍野は姫路市の西方にして、赤穂塩と赤穂義士を以て名を知らるる赤穂は、市の西方の海岸に在り。

銀山を以て有名なる生野は、本縣の但馬の南方に在りて、其南部國境に聳ゆるは、即ち生野の銀山なり、金、銀、銅を産す。

豊岡は朝來川の下流に在りて、柳行李の製造を以て其名聞ゆ。

出石は生野の北方にして陶器の名産地なり、世に出石焼と稱するは此の出石に

姫路ノ城
ヲ白鷺城
又々城
ト云フ

於て製する陶器のことを云ふ。

但馬播磨一帯の平地は、加古川及び朝來川の灌漑を得て、地味肥ゆるを以て農産の業盛んに、且つ養蠶の業も大に振ひければ、此の地方は凡て到る處に桑園多し。

牧畜殊に養牛は、此地方の專業とも云ふべき程にて、世に但馬牛の名高く、其多くは神戸へ送らるゝなり、人神戸牛の善良なるを説く、是れ但馬牛の事なり。淡路島は明石の南方の海上に横はれる嶋にして、其面積凡そ三十七方里あり、其明石と淡路嶋との海上を明石海峡と稱す。

洲本は淡路第一の都會にして、島の南部の東岸に在り、常に神戸大阪より汽船の往復絶へず。

由良港は洲本の東南方に在りて、其對岸は即ち和歌山縣の加太港なり、由良港と加太港との間を由良海峡と稱す、其間に苦ヶ島あり、由良は加太港と共に大阪灣の南口を形成するを以て、要塞砲兵の屯營あり、砲臺あり、又苦ヶ島にも

要津トハ
便利ノハ
船付ノ
場ト云
フナリ

砲臺ありて、相共に大阪灣を守備す。

福良港は淡路嶋の西部海岸にある良港にして、徳島縣に渡る要津とす、前面は遙かに鴨戸海峡を望み、港内船舶の出入常に絶へず。

兵庫縣の物産 物産の重なる物は、酒、醬油、木綿、鹽、皮細工、米、蠶、金、銀、銅、柳行李及び牛馬等なり。

◎ 練習問題

- 畿内の位置を問ふ
- 畿内の地勢を問ふ
- 畿内の氣候は寒暑の差大に著しと云ふ理由如何
- 京都府の位置及び地勢を問ふ
- 京都市の位置を問ふ
- 京都市に在る著名なる神社佛閣を問ふ

- 京都市に在る諸學校の重なるものを記せ
- 伏見町の概況を記せ
- 宇治町に在る有名なる建物を問ふ
- 京都市に在る花の名所を問ふ
- 京都府の名邑を列記せよ
- 舞鶴軍港の所在地を問ふ
- 京都市の重なる物産を掲げよ
- 大阪府の位置及び管轄區域を問ふ
- 大阪市の概況を記せ
- 堺市の概況を記せ
- 河内の名邑を問ふ
- 大阪市の重なる名産を列舉せよ
- 奈良縣の地勢を問ふ

- 奈良市に在る重なる古代の建築物を記せ
- 奈良縣の花の名勝地を掲げて其位置を示せ
- 奈良縣の重なる物産を示せ
- 兵庫縣の位置と地勢を問ふ
- 神戸市の概況を問ふ
- 御影及び灘の概況を記せ
- 兵庫縣に屬する丹波の名邑を示せ
- 兵庫縣下の海岸に於ける名所及び海峡を問ふ
- 淡路島の概況を記せ
- 姫路の概況を問ふ
- 播磨及び但馬の名邑を問ふ
- 兵庫縣の重なる物産を示せ

本道ノ南
部海岸ニ
吹クテ以
テ夏期ハ
炎熱ナリ
フテ心掛
ヨクテ冬
ハ温暖ナ
リトス

茶葉トハ
野果實
ノコトナ

本道の氣候は海流と地勢との關係に依て、多少の相違はあれど、概して温和にして南方海岸の地方は暖く、北部山地は寒冷なりとす。本道の屬島たる伊豆七嶋は稍や暑く、小笠原島は伊豆半嶋を距る百六十里の南に在るを以て、炎熱甚しとす。

本道は雨量多し、別て九月頃は雨最も多き頃なるを以て、時に木曾、利根、大井、天龍の諸川洪水の漲ることあり。

本道は氣候凡て温和にして、平野に富み、且つ河流灌溉の便十分なるを以て、五穀菜蔬製茶の生産地域廣く農業大るに振へり。

◎ 練習問題

- 東海道の位置及び境域如何
- 東海道の地勢を問ふ
- 東海道の平野多き部位を問ふ

平坦トハ
土地ノ廣
ク平ガナ
ルコトナ

窪地トハ
重リ合ツ
テ横テナ
リ

- 東海道の氣候を示せ
- 東海道の屬島を問ふ
- 東海道を幾行政區域に分たるや

◎ 東京府

東京府廳 は東京市にありて、武蔵國の南部一市八郡及伊豆七島と小笠原島并に硫黄島を管轄す。

東京府の地勢 土地は所謂關東平原の南なれば、一般に平坦にして、即ち武藏野と稱せし平野なり、西北には武甲、雲取の峻山連疊し、此山脉中より發するは、彼の多摩川にして隅田川中川の支流と共に、東京市を貫流して東京灣に入る、東京府の平野を灌溉せるは、此の多摩、隅田、中川の諸河流なりとす。

東京府の鐵道 官設東海道鐵道は東京市の新橋に起りて、東京灣に沿ひ神奈川縣に入る、又た新橋より起りて日本鐵道に合する一線あり、赤羽線と云ふ、日

○ 東海道

常陸鐵道
水戸市
過平
洋岸ニ沿
フテ岩沼
ニ至ルモ
ノナリ

第一府トハ
都府ノコ
トナリ

世界ノ五
大府ト
ハロンド
ンパリ
シバ
ベルリン
ウイーン
東京ナリ
トス此中
ノ大府

本鐵道は上野に起りて二大線に岐れ、一は埼玉縣に入り、一は茨城縣に入りて常盤鐵道と成る、飯田町より起るものは、甲武鐵道にして山梨縣に入る、本所より起るものは総武鐵道にして千葉縣に入る。

◎東京市

東京市は隅田川の河口に跨りて、南は東京灣に臨み、東西北の三面は關東平野なり、本市の廣さ東西三里南北四里を算し、人口は百七十萬余あり、實に我國の首府にして世界に於ける五大都府中の一なり。
市内は十五區に分たる、即ち麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川なり、市街は街路縱横に通じて家屋櫛比し、別て京橋、神田、日本橋區は繁華にして、家屋の建築又た壯麗を極め、煉石造あり石造あり、土藏造ありて商業殊に盛なり。
又た大道路は人道車道に區別して、其人道と車道の境には、悉く電燈瓦斯燈の

ハロンドン
人口四百六十萬
次ハパリ
百七十萬
他ハ我東
京ト略ホ
等シ
橋比トハ
並バタテ
立建テ列
ナクコト
ナリ
東京市
三ツツニ
大道路ハ
中央シ其
ニシテ中
側ハ即チ
人道ナリ
トス
千住ニハ
我國第一
ノ製鐵所
アリ

○東海道

設あり、又た樹木を植へて街道の風致を添ふ、車道には市街電氣鐵道鐵道馬車等縱横に運轉して、宛然織るが如し、且つ市街には電信電話電燈等の銅線蜘蛛の網の如くに架し、其繁華雜沓なる名狀に辞なし
宮城は市の中央に在り、諸官省、議院、兵營等は麹町區に在り、銀行、會社、諸學校等は市の各區に散在す、其建築の壯麗堅牢なる目を驚す。
本郷區には帝國各分科大學、高等學校、大學病院等あり、公園は上野、日比谷、淺草、芝、山内、九段等其大なるものにて、山水の明媚を以て世界第一等と呼ばれたるは上野公園にして、下谷區に在り、日比谷公園亦頗る大にして、公園の畔には貴衆兩院あり、九段公園には靖國神社あり、博物館動物園等は上野公園内に在り。
市の内外に散在して世に知られたる名所には、上野隅田川飛鳥山の櫻、龜井戸の梅、瀧野川の紅葉等なり。
東京府下の名邑としては西に八王子あり、北に千住あり、八王子は甲州街道に

伊豆七嶋 利新嶋 神津嶋 宅嶋 丈嶋 小笠原群嶋 父嶋 兄嶋 妹嶋 姪嶋 栽培トハ ウエルコ

百三十四
在りて、甲武鐵道の停車場あり、商業盛んにして即ち八王子銘仙の産出地なり
千住は奥州街道の首驛にして、荒川を隔て、東京市と接す。
伊豆七嶋は伊豆半嶋の東南の海上に散在せる大小七個の島嶼にして、大嶋御倉
島八丈島等最も大に、東京市よりは汽船の往復あり、彼の八丈絹は八丈島の特
産にして、他の諸嶋は水産物及び椿の油を出して東京市に送る。
小笠原嶋は南方の海上に在りて、數多の群島より成り、其中の大なるものを父
嶋とす、父嶋には嶋廳を置きて、全嶋を支配す、小笠原嶋は其地熱帯に近きを
以て炎熱甚し、故に同島には香蕉、椰子、珈琲等の熱帯性の植物産し、動物に
も亦た熱帯性のもの多く、大蝙蝠、信夫翁、鱒龜等あり、嶋民は冬期と雖ども
棉入の類を用ゐるの必用なく、十一月と雖ども尙は帷衣を着く、又た嶋民は甘
蔗を多く栽培して砂糖を製し、之を東京市に送る、東京市より汽船の往復あり
て、小笠原嶋と東京市との連絡を通す。
硫黄島は小笠原の南方に在る群嶋なり。

淺草海苔
ハ品川沖
ニア探集
ス

錦物ハ木
版ノ色刷
物ニテ江
戸給吾別
給等ノ別
名アリ

東京市にて製する物産は、淺草海苔、錦繪、蒔繪、籠甲の細工物、セメント、硝子、美術品等重なるものなり。

◎練習問題

- 東京府の位置を問ふ
- 東京府の管轄區域を問ふ
- 東京市の概要を記せ
- 東京府の地勢を問ふ
- 東京市より起る鐵道を問ふ
- 東京市附近の名所を問ふ
- 東京府下の名邑を記せ
- 伊豆七嶋の状況を問ふ
- 小笠原島の状況を問ふ

○東海道

○東京府の重なる物産を擧げよ

◎神奈川縣

神奈川縣廳 は武蔵國橫濱市に在りて、東京府の西南に隣り、武蔵の三郡と相摸一國を管轄す。

神奈川縣の地勢 東南の二方は海に臨む、東は東京灣にして、南は相模灘なり、西方は富士帶山脈南に走りて靜岡縣との境界を爲す、箱根山是なり、又た本縣の中央に聳ゆるは大山にして、大山の東麓一帶の地方は養蠶煙草の業盛にして、秦野煙草の名世に高し、馬入酒匂の二川は西部及び中部の山脈より發して、南に流れ太平洋に入る。

神奈縣の鐵道 は東海道線本縣に入りて、大船に於て支線を出し、鎌倉を過ぎて横須賀軍港に入る、本線は西に走り相模灘に沿ふて、國府津に至り、北に曲りて足柄山中を經へ靜岡縣に入る。

馬入川
神奈川
第一ノ大
川ニシテ
其流急

東海道
線ハ大
橋ナシ
架ス此
ニ

◎横濱市

横濱市は東京市の西南八里に在りて、東京灣の西岸に臨む、神奈川縣廳の有る所にして、我國第一の開港場たり、人口三十一萬を算し、外國貿易の盛なる蓋し全國本市に及ぶものなし、東南方に本牧岬斗出して本港と品川沖とを界す、本牧岬には燈台の設あり、内外の船舶常に港内に滿て、或は鐵道に依り、或は船舶に依て東京市に貨物を輸送す。諸外國の領事館あり居留地ありて、市民は概ね貿易を業とし、商業頗る盛なり、本港より東せば北亞米利加に、西せば朝鮮支那歐洲印度オースタリ一洲に通ず、東京市の殷盛を助くるは横濱市與つて力あり。

本港より海外へ輸出する重なる物は、生絲、製茶、木綿、織物、絹織物、銅等にして海外より輸入するものは、石油、砂糖、棉花、羅紗等なりとす。

横濱市の西南に在る名邑を鎌倉と云ふ、鎌倉は歴史に其名高き處にて、中古源

横濱市ハ
元一ト海濱
ナリ小村
安政ニシテ
開港スル
其ヨリメテ
第一ノ開港
地トシテ
其地ニテ
鐵道ニ依リ
日本全國
至リテ今
日ノ盛況
ナリトス
至リテ今
日ノ盛況
ナリトス
至リテ今
日ノ盛況
ナリトス
至リテ今
日ノ盛況
ナリトス

江ノ嶋ハ 瀨戸ノ風 景殊ニ絶 住ナル所 ナリ
 由井ヶ濱 及ビ七里 鎌倉ハ共 二江ノ嶋 岸ニアル 我々ノ四 軍港トシ 横須賀及 佐世保及 浦賀ハ我 國ノ文明 ノ基礎ナ 開キシ處 嘉永年間 嘉永年間 水師提督 水師提督 遠征隊ヲ 率キ井ノ 上陸セシ 所ナリ

頼朝が始めて幕府を開きし地にて、鶴ヶ岡八幡宮、鎌倉の宮、建長寺、圓覺寺
 其他北條足利の遺跡今尚存せり、鎌倉の附近海岸には、由井ヶ濱、七里ヶ濱
 江ノ島等の名所、さては稲村崎、腰越等の古跡あり。
 鎌倉の東南方三浦半島の東北岸に在る良港は、即ち横須賀軍港にして、我國四
 軍港中の第一とす、第一海軍鎮守府の所在地にて、海兵團あり、要塞砲兵あり、
 尚は大造船所あり、横須賀の船渠は東洋第一と稱す。
 要塞砲兵は東京灣内に在る夏嶋猿嶋及び横須賀の東南方に突出せる観音崎と、
 對岸に斗出せる上總の富津崎とに在る砲臺を守りて、共に東京灣を守備す。
 横須賀に隣りてある良港を浦賀とす、其他葉山、逗子、三崎等は皆相模南部の
 海岸に在る勝地にして其名高し。
 相模海岸の中央部より西には、平塚、大磯、國府津、小田原等の名邑あり、大
 磯及び平塚は海水浴場を以て其名高く、小田原は相模の小都會にして、土地の
 繁華なる蓋し相模第一とす、小田原の西は即ち箱根山なり。

箱根ノ七 湯ノ湯 本ノ塔 下ノ底 木賀ノ堂 湯ノ湯 箱根ノ七 湯ノ湯 本ノ塔 下ノ底 木賀ノ堂 湯ノ湯

箱根山には處々に温泉湧出し、箱根七湯の名あり、其中にて最も名の聞へしは、
 湯本、木賀、蘆ノ湯とす、山頂に在る湖水は即ち蘆ノ湖にして、風景殊に宜し
 く、湖水の邊に離宮を設けらる箱根離宮是なり。
 本縣の重なる物産は、蕪、煙草、鮮魚、漬物、湯本細工等なりとす。

◎練習問題

- 神奈川縣の位置及び地勢を問ふ
- 神奈川縣下の二大河流の水源及び方向を問ふ
- 横濱市の概況を記せ
- 鎌倉の名勝の地を問ふ
- 横須賀軍港の位置及び概況を記せ
- 浦賀及び其附近の名所を記せ
- 相模西部の海岸に在る名邑を問ふ

◎静岡縣

静岡縣廳は静岡市に在りて、神奈川縣の西に隣り、富士箱根の山脉に依りて神奈川縣との境を爲し、伊豆、駿河、遠江の三ヶ國を管轄す。

静岡縣の地勢 北方は山脉互ひに相重りて、東方にも亦た大山脉あり、南は太平洋に面し、西は三河に連る、本縣には平野の見るべきもの少く、概ね山岳を以て覆はる、唯だ西方遠江の三河に接する邊に於て、稍や平地を認め得らるのみ。

本縣の東南隅より長く洋中に斗出せるは、伊豆半島にして、師ち富士帶山脉の南方に亘りたるものなり、伊豆半島の西に在る大灣は駿河灣にして天城山は半島の中央に峙つ、本縣には著名なる河流最も多く、東にあるものは富士川にして、中央に在るものは安倍川及び大井川にして、西部に在るものは即ち天龍川なり。本縣の鐵道 は神奈川縣の國府津より、足柄山中に入つて佐野を過ぎ、三嶋に

天城山ニハ材等ノ出スル地トシテ、赤石ノ山ニテ、山ノ中ニ生ズルモノ多シ

富士川ハ、我國三大急流ノ一ナリ

二個ノ大谷トシテ、宇都宮ノ間に、宇都宮ノ間に、宇都宮ノ間に、宇都宮ノ間に

修善寺ニハ温泉アリ

間歇温泉トシテ、定メテテ、定メテテ、定メテテ

來つて支線を出す、即ち豆相鐵道なり、豆相鐵道は三嶋町より番場、韭山を経て大仁に達す、本線は三嶋より東して沼津を過ぎ、富士の裾野に沿ふて富士川を渡り、静岡に入り、其れより二個の大鑿道^{トンネル}を脱け、大井川を渡り、金谷の鑿道^{トンネル}を過ぎ、天龍川を渡り、濱松を経て愛知縣に入る。先づ順序として伊豆半島より説かむ。

下田港は伊豆半島の南端天城山の麓に在る有名なる良港にして、東京市と日々汽船の往復あり。

下田港の北方天城山の北に、修善寺、韭山等の勝地あり、又た下田港の南端に海洋等に斗出せるは石廊崎にして、伊豆半島の太平洋中に没する所なり。

熱海は伊豆半島の突出せんとする其基の所にして、小田原の海岸に沿ふて七里の西南岸に在り、我國第一の間歇温泉の出る所にして、東西北の三面は山岳を以て圍まれ、南方は相摸洋に面す、故に氣候別けて温暖にして、寒暑の差極めて少し、因て四季浴客充満し土地大に富めり、熱海の温泉は六時、十時、三

人車鐵道
トハ軌道
ノ上ニ客
車ヲ乗セ
テ人ノヲ
押スモノ

熱海ニハ
楠紙及ヒ
皮紙織
雁皮紙織
ノ名産ア

雁皮紙織
トハ雁皮
紙ヲ織リ
如クシテ
ナクシテ
リ横ニ木
織ニハ細
綿又ハ細
糸ヲ織リ
タルモノ
ナリ
眺望ハ四
方ノ眺メ
ヨキコト

時の三回に時を定めて湧き出づ、晝夜六回の噴出あり、熱海の海岸一里の前に在る小島は、伊豆七島の最小島たる初島（又た新島と云ふ）なり、小田原より熱海には人車鐵道の便あり、又た日々東京市と汽船の往復あり、熱海の西南の海岸に在るは伊東にして、亦た温泉の涌出するあり。
静岡市は駿河の中央南部にして、安倍川の東岸に在る細長き市街なり、静岡縣廳の所在地にして、歩兵第三十四聯隊の兵營あり、人口四万五千を有し、駿河第一の大都會たり、水陸の便宜しきを以て、市街繁華を極め、商業亦た盛なり、市の東南隅に在る小山は即ち久能山にして、徳川家康の廟の有る處にて、四方の眺望風景甚だ宜しく、今は公園と成れり、市中よりは雁皮紙、駿河半紙、竹細工、漆器等を産す、又た此地方は一般に製茶の業盛大なり。
沼津は駿河灣の東北岸に在る名邑にして、土地繁昌を極む、沼津は東海道中第一の氣候温暖なる所なるを以て、製茶の業に適し、又た宮内省の御用邸を置かる。

雅趣トハ
云フニ云
ヘヌオモ
ムキ
我國ノ三
大急流ト
ハ富士川
上川ナリ
集散地ト
ハ外ヨリ
來ル貨物
ヲ四方ハ
方ヘ分ケ
送り又四
方八方ヨ
リ來ル貨
物ヲ一マ
トメトシ
テ外ヘ出
スコトヲ
云フ
標本トハ
テホント
云フコト

田子ノ浦は沼津の西に在りて、駿河灣内の勝地なり、富士川は此處に來りて駿河灣に注ぐ、田子ノ浦は正面遙かに富士山を望むを以て、山水の雅趣其極に達す、故に其名高し、富士川は我國三大急流の一にして、源を甲斐の山中に發す、田子ノ浦の附近には、興津、蒲原等の名邑相竝ぶ、此邊一帶の海岸を清見灣と呼びて、鯛の名産地なり興津鯛の名世に高し。
清水港は静岡縣の貿易港にして、静岡市の東方駿河灣の西岸にあり、常に商船の出入絶へず、又た東京市とは汽船の往復ありて、静岡縣下の貨物集散地とす、港の南岸より一條の砂嘴北に向つて斗出し、其砂上には翠したる大小の松羅列して、其數限りなし、宛然小舞子の如し、是れ即ち有名なる三保ノ松原なり。
富士山は駿河灣の北方に聳へ、我國第一の名山なり、其山形は第二總論に於て記せる如く、圓錐形にして火山の好標本たり、其麓は富士の裾野にして、廣く延び草木繁茂せり、其頂上は八ツの峯に分れて、中央に大噴火口の跡を存す、富士山の東南に聳ゆるは、即ち愛鷹山にして山中よりは、松、檜、杉、樅等の良

材を出す。

大井川は駿河遠江の國境を流るゝ大川にして、平常は水浅く容易に徒歩して渉るを得るも、夏より秋へかけては雨水氾濫して、濁浪岸を洗ふ、其西岸に在る名邑は嶋田なり。

大井川の西にある大川は天龍川にして、其源は信濃の諏訪湖に發す、川巾の廣きこと東海道第一とす、天龍川の上流は七面秋葉山等にして、山中よりは杉、扁柏、松等の良材を出す、此等の良材は山中より運搬の便悪しきを以て、筏に組み、天龍及び大井川の二川に流して下流に送る。

濱松は静岡縣下第二の都會にして、商家軒を列ね、土地大に富めり、濱松の北方に在る大牧場は、即ち三方原にして古戰場なり、西には濱名湖ありて、其入口を今入と稱す、是れ湖水の南方の一部、明應年間の海嘯の爲めに浚われて海と通するより、今切の名出づ、東海道鐵道は今切に鐵橋を架し汽車其上を走る。

砂原ノ長
出テ中ニ
モナク云
一ハ田ノ
水ガ源キ
ルコトナ

三方原ハ
徳川家康
ト武田晴
信ト戦ヒ
タル有名
場ナリ古

牧場トハ
イキハノ
コトナリ
濱名湖ハ
駿ノ名産
トナリ北
部ノ山脈
中ニ多ク
産ス

濱名湖の東部海岸に一勝地あり、舞阪と云ふ、白砂を敷かれたる處、青松の羅列するあり、遠州灘の水岸を洗ふて亦た海水浴に適す、本縣の物産の重なる物は茶、木材、石材、紙、稚茸、銅、鐵、漆器等なり。

◎練習問題

- 静岡縣の管轄區域を問ふ
- 伊豆半島に在る著名なる温泉場を記せ
- 熱海の位置并に熱海温泉は何に温泉なるか
- 田子ノ浦の状況及び附近の名邑を問ふ
- 濱松の概要を記せ

◎愛知題

愛知縣廳は尾張國名古屋市に在りて、三河尾張の二ヶ國を管轄す。

三河ノ國
名ハ矢作
太平豐川
ノ三川ア
ルヨリ起
ルト云フ

愛知縣の地勢 東は靜岡縣の遠江に接し、北は信濃及び美濃に接し、西南は伊勢海に臨み、南部一帯は太平洋に面す、北部信濃美濃の國境には山脈相連れども、本縣は東海道西部の平原にして即ち濃尾平野の南部を占む、三河の海岸東より西に向ふて伊勢海に突出せるものは即ち濃美半島にして、尾張の海岸北より南に向つて伊勢海に突出せるものは即ち知多半島なり、三河の東北部に峙つ山岳は、鳳來寺山、本宮山等にして、國中を北より南に向つて流るゝ三大川あり即ち三河の三川にして、矢作、太平、豐川とす。

愛知縣の西部美濃と尾張の國境を経て、伊勢と尾張の國境に沿ひ伊勢灣に流れ入る大河あり、木曾川是なり、木曾川は其源を信濃木曾山中に發する、我國著名の大川にして、其流れ亦た急なり、其水は四方の平原に灌漑して我國第一の沃野と其名を博せる、濃美の平野を構成せるは、全く此の木曾川の賜なりと云ふ。

愛知縣の交通 東海道鐵道は遠江より三河に入り、豊橋に於て豊川鐵道を出し

尾西鐵道
ノ通路ニ
津島ノ名
邑アリ

名古屋市
中ヨリハ
愛知物産
鐵道ヲ編
織交織ノ
織物ヲ出
シ又七寶
燒トテ陶
器ニ金銀
銅等ヲ以
テ模倣シ
更ニ彩色
ノ彩シテ
爲シテ花
鳥其他ノ
關テ現シ
ニテ外國
ヘ輸出サ
ル
阿波津ト
ハ伊勢ノ

大府に於て武豊線を出し、其より本線は名古屋市を過ぎて一の宮木曾川を經へ、大鐵橋を渡つて岐阜縣に入る、又た一ノ宮より尾西鐵道起りて關西鐵道の彌富驛に接續す、關西鐵道は名古屋市に起りて彌富を經へ、木曾川の鐵橋を渡つて三重縣に入る、中央鐵道は名古屋市に起つて岐阜縣に入り、多治見中津に至る。名古屋市は尾張平原の中央に在る大都會にして、人口二十八萬を有し、東京西京の中央に在るを以て、中京の名あり、市内の繁榮商業の隆盛なること三府に次ぐ。

名古屋城は市の北方に在りて、結構宏大我國第二の堅城として其名高く。其天守閣上に躍けるは金城の名の出る即ち黄金の城なり、第三師團司令部其他の兵營は皆城内に在り、天守閣は離宮と爲れり。

名古屋市に接續せる東南に在る名邑は熱田にして、又た宮と呼ぶ、此地伊勢海に臨むを以て、船舶の便殊に宜しく、伊勢の四日市、桑名、阿波津等と、運輸絶へず、船舶の出入極めて多し、熱田神社は草薙の劍を祀れる有名なる神社に

三重縣廳は伊勢の津市に在りて、伊賀、伊勢、志摩の三國及び紀伊の二郡を管轄す。

三重縣の地勢 本縣は東海道の西南端に位して、木曾川に依りて愛知縣と界し、東方は伊勢海にして、遙かに三河尾張の海岸と相對し、南方は太平洋に面す、西部は即ち有名なる鈴鹿山脈紀伊山系と相續りて南北に延ぶ

三重縣の鐵道 は關西鐵道尾張より來りて、柘植に於て二線と成り、一は近江に入りて東海道線に合し、一は伊賀を経て山城及び大和に入る、又九龜山より發する一線は、即ち參宮鐵道なり。

津市は伊勢海岸の中央に在りて、三重縣廳地方裁判所あり、人口三万五千を有し、市民は商業及び工業を以て業とす、其地海岸に在りて船舶の出入殊に宜しきに依り、繁榮を極む、彼の有名なる阿漕が浦は市の海岸なる、海上一帶を云ふ。

津市の南方宮川の畔に在る名邑は、宇治山田の町なり。

津市ハ元ノ安濃津ノコトナ
津市ハ元ノ安濃津ノコトナ
津市ハ元ノ安濃津ノコトナ
津市ハ元ノ安濃津ノコトナ

宇治には天照皇太神を祀り奉る内宮あり、山田には豐受太神を祀り奉る外宮ありて、參拜者常に群を爲す。

松阪町は津市と山田の中程に在る名邑にて、二見浦は宮川の下流伊勢海に注ぐ海上に在る、夫婦岩の奇石なり。

四日市市は三重縣下に於ける第一の商業地にして、東京大阪より汽船の出入絶ゆることなく、實に本縣の米穀其他物産の輸出地にして、市内には紡績、製紙等の工業會社ありて、其繁華なる津市を凌ぐ。

桑名町は揖斐川の河口に在りて、四日市に隣り、市内は豪商軒を並べ、米穀の賣買を爲す問屋、數多あり、桑名附近の海岸には蛤を多く産し、時雨蛤の名天下に高し。

志摩は我國第一の最小國にして、志摩半島の北岸内海に臨める處に良港あり、鳥羽港と云ふ、鳥羽には日本形船の造船所あり、半島沿岸の住民は、男女の別なく一般に漁業を營む。

○東海

松阪町ハ木綿織ヲ出ス
四日市市ハ日産紙ヲ出ス
市ハ日産紙ヲ出ス
市ハ日産紙ヲ出ス
市ハ日産紙ヲ出ス

日本三大公園ハ水戸公園、兼六園、岡山公園、樂園、ハ水戸、齊昭、造列、源列、コトナリ、徳川光圀、即チ水戸、黃門ノ西、居セシ、山ノ地、北田町、鹿嶋神社、命ヲ祀ル

んにして、土地殊に肥沃なり。

茨木縣の鐵道 東京より來りて土浦を過ぎて水戸に入り、其より海岸に沿ふて磐城に入るものは常磐鐵道なり、又た水戸より下館、結城を過ぎて栃木縣の小山に至る一線あり、尙ほ水戸より太田町に至る支線を出す。

水戸市は常陸國の東部那賀川の南にあり、茨城縣廳の所在地にして常陸第一の大都會なり水戸は徳川氏の舊城地なれば、市中は殊に殷盛を極む、城内には弘道館、借樂園あり、借樂園は日本三大公園の一にして、園内の風致殊に美なり、市を距る三里の東方は太平洋岸にして、海岸に大洗の名所及び磯濱の漁業地あり。

霞浦は常陸國の東部に在る湖水にして、我國第二の大湖なり、湖上には汽船の往來ありて、湖岸各地の交通運輸に便す、湖水の沿岸に在る都會は、土浦、石岡、北浦等にして、北浦の東に有名なる鹿島神社あり。

其他太田町、結城町、笠間町等は共に常陸の名邑にして、煙草、絹織物等の産

太田町ヨリハ雲井、煙草ヲ出ス、結城町ハ、シヨリハ、城ヲ出ス、茨城縣ハ、石ノ理ト、ニテハ、其ノ色、種々アリ、此ノ北、岳ヨリ、炭ト共ニ、出ス、勿來ノ、ハ本縣、リテ昔、關所トシ、コ

地なり。

茨城縣の物産 其重なる物は雪井煙草、結城紬、紙、石炭、寒水石、木綿、清酒等にして、霞ヶ浦よりは鯉、鮒、鰻、海老等の淡水魚を多く出す。

◎練習問題

- 茨城縣の地勢を問ふ
- 水戸市の概況を記せ
- 霞ヶ浦の状況を問ふ
- 霞ヶ浦の沿岸に在る名邑を記せ
- 茨城縣の重なる物産を問ふ

◎埼玉縣

埼玉縣廳は武藏國浦和町に在りて、武藏の九郡を管轄す。

秩父地方
ヨリハ有
名ナル秩
父絹ヲ産
ス

埼玉縣の地勢 本縣は關東平原の中央部に在りて、東は利根川に接し、南は東京府に連る、故に一般に平地にして農業殊に盛なり、西北隅は即ち秩父山脉相重りて、甲斐と下野の界を爲す、此地方は一般に養蠶の業盛なり。
埼玉縣の鐵道 日本鐵道は東京より來り、大宮町に於て二つに岐れ、本線は古河、栗橋等を経て栃木縣に入るは即ち中仙道線にして、深谷、熊谷等を経て群馬縣に入る、又た東京府より川越町に至る川越鐵道あり。
浦和町は本縣第一の都會にして、埼玉縣廳の所在地なり、浦和町の西北に隣れるは大宮町にして、有名なる氷川神社の在る處、其北群馬縣の界にある名邑は熊谷なり。
川越町は浦和の西北に在りて、甘藷を以て其名高し。
埼玉縣の物産 其重なる者は絹織物、生絲、麥等なり。

◎練習問題

- 埼玉縣の地勢を問ふ
- 氷川神社は何處にあるか
- 埼玉縣の管轄區域を問ふ
- 埼玉縣の名邑を記せ
- 秩父絹とは何處にて製出するや

◎山梨縣

山梨縣廳 は甲斐國甲府市に在りて、甲斐一國を管轄す。
山梨縣の地勢 本縣の中央部は十里に亘る平野にして、富士川の上流なる蘆川の灌溉を受けて、地味大るに肥へ、農産の業に適すれども、周圍は悉く山岳にして、南部は富士山を以て駿河と界し、北部は富士山脈の八ヶ岳金峯等の諸山相重り、東部には小佛峠の山脈を始として笹子峠、天目山あり、西部には白根、北岳、駒ヶ岳等の峻山相峙ち、西南部には有名なる身延山あり。

○東海道

富士八湖
六湖
河口湖
山中湖
西湖北湖
精進湖
尾瀬湖
天目山
武田山
駿河川
田代川
三ヶ淵
二ヶ淵
一ヶ淵
山梨縣
秩父縣

山梨縣の物産 其重なる物は甲斐絹、郡内織、葡萄、葡萄酒、黒八丈絹、花崗石、水晶木材等なり。

◎練習問題

- 山梨縣の地勢を問ふ
- 猿橋は何川に架せるや
- 蘆川は如何なる水路を経て何川に入るや
- 山梨縣に屬する富士八湖中の六湖を示せ
- 山梨縣の重なる物産を問ふ

第三章 東山道

◎位置及び區劃

東山道は本洲嶋の中央部より、東北に長く延びたる一帯の地方なり、本道の南

地陸トハ
土地ノホ
子グミト
云フコト
二大山脈
トハ總論
ニ於テ述
ル所ト

は東海道に接し、その東海道に離るる部より、更に北に曲りて、其より東は太平洋に面し、西は畿内及び北陸道に接して、北方の一部分の西は、日本海に面し、而して北端は津輕海峡を隔て、北海道と相對す、本道内には近江、美濃、飛驒、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後、十三ヶ國あり、又便宜上近江以下下野までの六國を中山道とし、磐城以下の七國を奥羽と稱す。
本道に滋賀、岐阜、長野、群馬、栃木、福嶋、宮城、巖手、青森、秋田、山形の十一縣を置きて分轄す。

◎地勢及び氣候

本道は我國の地格を構成せる二大山脈と、富士帶山脈の互ひに入り交りたる地方なれば、全道盡く山脈相連りて、土地極めて高く、就中飛驒信濃の地方は最も高くして、その平地と雖ども、海面より高さこそ千尺以上ありと云ふ、故に

我が國第一の高地を爲せり。

近江以下野に至る迄の中仙道は、山脉最も峻しくして、此の間に、飛驒山脉、木曾山脉、三國山脉等あり、而してこれ等の山脉より出づる河流は、東西に流れ、その東するものは東海道を流れて太平洋に入り、西するものは北陸道を経て日本海に入る。

その奥羽と稱する地方の山脉は、中仙道のそれよりは稍や峻しからざれども、陸奥山脉、出羽山脉、北上山脉等ありて、東西南北に延ぶ、故に太平洋、日本海に面する海岸にも、峻山相峙つ、即ち斗南半嶋に在る恐山の如く、羽前の西海岸に峙つ岩木山の如き是なり、これ等の山脉より出づる河流は、各東西に流れ、その東するものは太平洋に入り、西するものは日本海に入る、而して斯の如く本道は山脉に富むも、其間處々に大なる平野ありて能く農産物を出す。本道の河流は皆大川にして、其の最も著しきものを擧れば、信濃川、木曾川、阿武隈川、北上川、最上川等なり

開墾地トハ
土物ヲ開
ヒテ作物ヲ
作ルコトヲ
ニスルコト

滋賀縣ハ
平野皆肥
沃ナルヲ以
テ米油等ノ
産出多ク又
タ穀業盛ナリ

本道は其長さ二百九十里に近きを以て、氣候一樣ならずと雖も、概して寒むく、飛驒信濃の高地奥羽地方は別けて寒し、南部の低地には稍や暖かき處あるも凡て寒さ強し。

地味は一樣ならざるも、先づ肥沃なれば農産の業に適する地方少なからず、然れども本道は農産の業よりも、寧ろ養蠶の業盛なる地方とす、又奥羽地方の山間に在る平地にして、未だ開墾されざるもの數多ありと云ふ。

◎ 滋 賀 縣

滋賀縣廳 は大津市に在りて、近江全國を管轄す。

滋賀縣の地勢 本縣は東山道の西端に位し、四面皆山を以て圍まれ、其中央に琵琶湖あり、湖水の附近は平地にして地味殊に肥沃なり。

滋賀縣の鐵道 東海道線は西大谷の隧道を経て、馬場に來り、湖水に沿ふて草津、彦根、米原を經へ、膳吹山を越して岐阜縣に入る、此間馬場より大津線を

石山寺ハ
瀨田川ノ
昨ニ在リ
近江八景
トハ三井
ノ晩鐘
比良ノ暮
雪ノ石山
ノ秋月
帆走ノ湖
矢野ノ田
粟津ノ暗
嵐夜ノ落
雁等ニ
シテ湖畔
ニ在リ風
光絶佳ナ
比叡山ハ
畿内ノ名
山ニシテ
山中ニ延
曆寺アリ
寺ハ即チ
天台宗ノ
本山ナリ

出し、彦根より近江鐵道を出し、米原より湖水に沿ふて北に走るは、北陸線なりとす、又草津より關西鐵道を出して三重縣に入る。

大津市は琵琶湖の南岸に在る大都會にして、前に琵琶湖を扣へ、水陸運輸の便盛なるを以て、土地殊に繁華なり、滋賀縣廳歩兵第九聯隊の所在地なり、市の西方に聳ゆるは比叡山にて、其麓に在るは三井寺なり、北方に峙つは比良山にして、共に近江八景の中なり。

琵琶湖は我國第一の大湖にて、周圍七十余里、中に竹生、沖奥等の小島散在し風光殊に美なり、湖上は汽船の往復ありて湖畔の各地と交通の便を取る、湖水より鮒、鯉、鮎等を産して、其味美なり、湖水の水は瀬田川と成り、山城に入りて淀川と成る、瀬田川に架する唐橋は其名高く湖畔の八景は世に響く。

逢阪山は逢阪の關の在りし處にして、大津市に在り、大谷の隧道は即ち逢阪山を貫通せるなり、又た比叡山を穿つて湖水を京都に通じ、運河と爲す疏水是なり。

湖水ヨリ
出ル五郎
源五郎等
紅葉餅等
彦根ハ伊
井地ニテ
城內ニテ
城樂園
ハ湖水ヲ
望ミテ風
光絶佳ナ
園今ハ公
園ト成レ
賤ヶ岳ハ
有名ナル
古蹟ニシ
テ一年ニ
豊臣秀吉
ト柴田勝
家ト戦ヒ
タル處ナ
伊吹山ハ
山中ヨリ
出ル

大津市の東に草津、野州、八幡等の名邑ありて、共に鐵道の便あり、此地方よりは茶、木綿、蚊帳等を産す、殊に野洲、八幡地方には豪商多く、住ひて土地大に富む。

彦根町は湖水の東畔に在る名邑にして、市街繁華なり、縮緬の産出を以て名高き長濱は、湖水の北岸に在りて商業盛なり。

米原は彦根の東北に在る一邑にして、土地繁華ならざるも、東海道線と北陸線の分岐点なるを以て、現今大に繁華に赴けり。

歴史に有名なる賤ヶ岳は湖水の北方に聳ゆ、東に聳ゆるは膽吹山なり。滋賀縣の物産 其重なる物は縮緬、木綿織、蚊帳、茶等なり。

◎ 練習問題

- 滋賀縣の地勢を問ふ
- 湖畔八景を問ふ

○ 東山道

○前橋及び高崎の状況を問ふ
○縣下の温泉を記せ

◎ 栃木縣

栃木縣廳 是宇都宮市に在りて、下野全國を管轄す。

栃木縣の地勢 北方は足尾、日光、那須の諸山脈相重りて、土地殊に高けれども、南方は關東平原の北部に屬して、土地肥ゆるを以て農産の梁盛なり。

栃木縣の鐵道 日本鐵道本線は小山より宇都宮に來り、日光線を北に岐ちて、本線は那須ヶ原を過ぎ、福島縣に入る、群馬縣より來るものは、足利、佐野、栃木を経て、小山に至る、佐野より小支線出づ、越前、高生に至る線路なり。

宇都宮市は南部平原の中央に在る都會にして、人口三万二千を算し、栃木縣廳の所在地なり、此地は奥州街道の咽喉に當るを以て、商業亦盛んに市内は繁華を極む。

我國第一の産出物ト以テ
云ハレタ
ハ足尾山
ハ西北群
馬縣トノ
國境ニ變

咽喉ハノ
トクビト
云フコト

宇都宮市
ノ西北ニ
鹿沼ト稱
スル名色
アリ麻色
産出地ニ
シテ我國
第一ノ麻
ヲ出ス

那須野ヶ原
ニ亘ル平
野ナドハ
モ土質ハ
ニシテ昔
時ハ荒野
ナリシモ
近來ハ之
ヲ開墾シ
テ農産ヲ
起シ

日光は我國第一の勝地にて、徳川氏の廟地たり、其建築壯觀なる土地の高燥にして山水の風景に富める、實に比類なき所なり、地は宇都宮市の北方九里の處に在り、山中に中禪寺湖あり、華嚴の瀧は湖水の水の溢れ出するものなり、日光町は日光山の麓に在りて夏季は大に賑ふ。

宇都宮市の西南に在る名色は、足利、佐野、栃木等にして、共に絹織物の産出を以て其名高く、眞岡は晒木綿の産地にして、眞岡木綿の名世に高し。

那須野ヶ原は本縣の北部にありて、北に聳ゆるは、那須山なり、那須野ヶ原の西方那須山の西麓に、那須及び塩原の温泉あり、日本鐵道は原の中央より、稍や北部を東に向つて走る。

栃木縣の物産 絹織物、木綿、麻、麥、米等にして、山中よりは石材、木材及び木炭、薪を出す。

◎ 練習問題

○東山道

- 栃木縣の地勢を示せ
- 宇都宮市の状況を問ふ
- 日光の景況を問ふ
- 縣下の温泉を問ふ
- 栃木縣の重なる物産を示せ

◎ 福島縣

福島縣廳は福島町にありて、岩代一ヶ國と磐城の西部七郡を管轄す。
 福島縣の地勢 北部國境は山岳に富むも、其他は一般に平地にして、阿武隈川、阿賀ノ川の灌漑を受けて、土地大に肥へ農業牧畜の業盛なり。
 福島縣の鐵道 は栃木縣より本縣に入り、白河を経て郡山、二本松を過ぎ、福島町を経て宮城縣に入る、郡山よりは岩越鐵道起りて、若松市に達す、又た海岸には常磐鐵道茨城縣の水戸より來りて、平原、中村を過ぎて宮城縣の岩沼に至りて止む、福島町より出るものは山形縣の米澤を経て山形市に至る、白河町は本縣の南部に在る小都會なり、白河の東方海岸の名邑は平にして、此附近より石炭を産す。

福島縣下
 各名邑
 一般ニ
 盛ニ行
 盛ニ行

福島町は本縣の東北部の平野に在り、町に沿ふて流るゝは阿武隈川なり、福島縣廳の所在地にて、市街は蠶業盛んに行はるゝを以て、土地豊かにして繁昌を極む。

二本松郡山本宮等の名邑は福島町と白河町の中間に在りて、共に蠶業を以て其名高し、三春は有名なる牧畜場なり、若松市は本縣の西北部の平野に在りて、會津地方の都會なり、若松城は松平氏の舊居城にして、戊辰の役に會津藩士の立ち籠りたる處なり。

猪苗代湖 有名なる大湖にして、周回十五里を算す、若松市の東方に在りて、湖水は北に流れて阿賀ノ川と成る、又た市の北方に聳ゆるは磐梯山にして、目下息火山の状態に在り、其又た北に高く峙つは吾妻火山なり。

○ 東山道

若松市ヨ
 及ビ津
 燭ヲ産ス
 其燭ノ色
 如キハ色
 ヲノ彩色
 施シタル
 モノニテ
 立派ナリ
 磐梯山ノ
 麓ニ温泉
 場アリ
 相馬燒ト
 ハ舊相馬
 氏ノ領地
 中村ニ
 於テ産出
 スルモ
 ニテ美醜

ト云フヨ
ニ宮ム中
村ハ常磐
鐵道ノ通
路ニシテ
福嶋町ノ
東方海岸
近キ處ニ
アリ

彎曲トハ
号ナリニ
ルコト

白石ハ片
倉小十郎
ノ舊城地
ニシテ本
縣南部ノ
名邑ナリ

福嶋縣の物産 其重なるものは繭、生絲、三春馬、石炭、相馬焼、會津塗、燭燭等なり。

◎宮城縣

宮城縣廳 は陸前の仙臺市に在りて、磐城の三郡と陸前の十三郡とを管轄す。宮城縣の地勢 西方一帯の地は山脈相重りて山形縣と境し、北は巖手縣に接し、東部一帯は太平洋に面して、海岸彎曲す、松嶋灣は海岸の西部に在りて、牡鹿灣は其東北部に在り、本縣の河流は西及び北に發して、松嶋牡鹿の兩灣に注ぐ。本縣の東部一帯の地方は平野にして、河流の灌溉十分なるを以て、土地肥沃野十數里に亘る、宮城野とは其平野を云ふ、故に農産の業著しく發達して、米穀の發育殊に良し。宮城縣の鐵道 は福島縣より來り、白石、岩沼を経て仙台市に入り、北に走つて岩切を過ぎて巖手縣に入る、塩釜線は岩切にて岐れ塩釜に達す、福嶋縣の東

仙合城ハ
一ニ齊集
城ト云ヒ
伊達家ノ
舊城ナリ

仙台市内
ノ最モ茶
路ハ芭蕉
ノ迂ニテ
ハ櫻ケ岡
ノ名

宮城縣ノ
絹織物ニ
テ其名高
キハ八橋
織仙台平
木中ニ埋
水ヲ掘リ
シテ製セ

部海岸より本縣の岩沼に來るものは常磐鐵道なりとす。

仙台市は本州の東北部に於ける、第一の大都會にして、平野の南部に在り、市の中央を東に流るゝは廣瀨川なり、人口八萬五千を算し、宮城縣廳、第二師團司令部、第二高等學校、控訴院等の所在地なり、市街縱横に通じて商業盛んに、土地極めて繁華にして百貨常に輻湊す。

松嶋は松嶋灣に散在せる數百の小嶋にして、島は悉く松樹を以て滿され、嶋間を小舟に棹して回遊すれば、其風光得も云はれず、實に日本三景の一なり、松島の西方一体の海岸は千賀の浦と云ひ、塩竈は其陸上にある名邑にて、鹽竈神社あり。

松嶋灣の東北に連なれるは、牡鹿灣にして、灣内に萩の濱石巻の二良港あり、共に船舶の出入絶へず、東京よりは汽船の往復ありて市街繁華なり、北上川は石巻に來つて海に入る、又其東方より南に向つて長く斗出せるは、牡鹿半島にして、金華山は半島の東に在り。

ルモノニ
テ其色黒
ク其質堅
ク且ツ重
クシテ盆
茶葉等チ
重ニ製ス

盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ
盛岡市ハ

宮城縣の物産 其重なる物は米、繭、生絲、絹織物、埋木細工、銅器等なり。

◎練習問題

- 宮城縣の地勢を問ふ
- 仙台市の状況を記せ
- 宮城縣の良港を示せ
- 松島附近の景況を問ふ

◎巖手縣

巖手縣廳 は盛岡市に在りて、陸前の一郡と、陸奥の一郡とを管轄す。

巖手縣の地勢 本縣の北及び西は山脈互ひに相重りて、青森縣と秋田縣の境を爲し、東部は太平洋に面すれども、其間諸處に山脈の起伏するあり、中央部は

部海岸地
方ニ高ク
時ハ早ク
昨ナリト
一木本國
大牧場ニ
方ハ此部
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出
方ヨリ出

一帯に平地にして、北上川其中央を流れて沃野多く、故に米穀の産出夥しく、又た牧馬の業は我國第一にして、夙に南部馬の名を以て世に知らる。

巖手縣の鐵道 日本鐵道は南宮城縣より來りて、一の關を過ぎ、盛岡市を経て青森縣に入る。

盛岡市は本縣平野の北方に在る都會にして、北上川に臨む、巖手縣廳の所在地なり、人口三万五千を有す、市中よりは種々の物産を出して、商業盛んに土地賑ふ、市の北方に有名なる牧場あり、一本木にして良馬を産出す。

一の關は本縣の南部にある名邑にして、衣川は其の西北に在り。釜石、宮古は本縣東海岸に在る良港にして、共に船舶の出入多く商業大るに振へり。

巖手縣の物産 其重なる物は縮緬、絹織物、鐵瀝、下駄の表、米穀、馬等なり。

◎練習問題

○東山道